

# 事業報告書及びその付属明細書

2021年度

自 2021年4月1日 至 2022年3月31日

公益社団法人アジア協会アジア友の会

# アジア協会アジア友の会(JAFS)のめざすもの

## I. 基本理念 (Vision)

文化の多様性を尊重し、誰もが生まれてきて良かったと思える地球社会の創造をめざし、以って各自の生命(いのち)の価値を高める。

## II. 基本課題 (Mission)

1. アジアの開発途上地域において人間として最低限の衣食住や教育、生活環境が確保出来ない人々への支援を通して自立へのきっかけ作りを行う。
2. 国際社会に必要なボランティア活動の育成と推進

## III. 基本目標 (Goal)

アジアの善意を結集して地球社会奉仕活動を推進し、以って人間として各自に与えられた生命(いのち)の役割を果たす。

## IV. 基本活動 (Program offered)

1. 国際協力支援事業の推進
2. 国際人的ネットワーク網の確立
3. 日本における良き社会づくりの推進

<b>事業報告</b>			1
<b>I. 開発支援事業</b>			
A. 水事業	1. 井戸・飲料水供給		10
B. 子ども事業	1. 初等教育普及・向上		12
	2. 教育設備・環境整備		13
	3. HIV/AIDS 子ども感染予防		
	4. 栄養改善・ストリートチルドレンの保護・教育支援		
C. 貧困対策事業	1. マイクロクレジット 支援・能力開発	(1)小規模産業育成	15
		(2)職業訓練	
	2. 保健衛生指導・医療	(1)トイレ建設	
		(2)医療支援	
3. 提携 NGO 運営助成		16	
D. 環境事業	1. 植林・水源涵養林養育		17
	2. 環境改善・国際グリーンスカウト		18
	3. 再生可能エネルギー資源活用・普及		
F. ワークキャンプ・視察	1. ワークキャンプ		19
	2. 海外プロジェクト視察		
<b>II. 国際交流事業</b>			20
A. 人材交流・育成事業	1. 奨学金支援		20
	2. 海外ボランティア研修制度		
	3. 人材育成事業	(1) アジア・ユースサミット (AYS)	
B. ネットワーク推進事業	1. 国際会議	(1) アジア国際ネットワークセミナー	22
		(2) 国際ネットワーク機能強化事業	
		(3) アジア・フレンドシップ夢基金	
	2. 国際体験交流 (スタディツアー等)		
資料：海外提携団体 AFS ネットワーク			24
<b>III. 災害・紛争の罹災者に対する生活支援事業</b>			27
A. 災害等罹災者支援事業	1. 災害等罹災者支援事業	(1) ネパール中部地震災害復興支援	27
		(2) 東日本大震災災害復興支援	
		(3) 新型コロナウイルス感染症対策支援	
		(4) フィリピン台風被災者支援	
		(5) ミャンマー支援	
<b>IV. 普及啓発事業</b>			31
A. 地域広報活動事業	1. 本部活動	(1) JAFS チャリティプログラム	31
		(2) 国際理解教育講座	
		(3) 国際ボランティア啓発活動	
		(4) アジア文化理解講座	
		(5) 研修生・実習生受入プログラム	
		(6) 法人関連プログラム	
		(7) JAFS 社員クラブ	
		(8) JAFS アジア市民大学	
		(9) コロナ緊急支援留学生&支援者交流会	
		(10) JAFS SDGs セミナー	
		(11) JAFS グローバルコミュニティ・カレッジ	
		(12) 関連プログラム/その他団体協力	
	2. 地区活動	(1) 会員拡大・地区活動推進委員会	34
		(2) 地区世話人一覧	
		(3) 第1エリア	
		(4) 第2エリア	
		(5) 第3エリア	
		(6) 第4エリア	
		(7) 第5エリア	
3. 広報	(8) 第6エリア	35	
	(9) 第7エリア		
	(10) 第8エリア		
	(11) 第9、10エリア		
4. プロジェクト支援	(1) アジアネット	37	
	(2) ホームページ/フェイスブック		
5. 関連市民活動	各ファミリーグループ・支援会	38	
	(1) 関西ナショナル・トラスト協会		
B. 環境保全・環境教育(国際グリーンスカウト運動)	(2) 日本を良くする会	41	
	(1) 土と水と緑の学校		
	(2) 美山 土と水と緑の自然学校		
	(3) 各部会活動		
<b>V. 運営管理</b>			45
A. 社員総会		45	
B. 役員一覧		47	
C. 理事会		47	
D. 常置委員会		47	
<b>事業報告の付属明細書</b>			48

## 2021年度 事業報告

2021年度は、前年に引き続き新型コロナウイルス感染症禍による非常事態宣言が継続状況の中で、各種の社会生活や活動が制限された状態にあったため、市民団体である本会の活動・事業を積極的に進める難しさがありました。

新型コロナウイルス感染症(以下コロナ)拡大を防ぎながら、事業計画に基づく活動・事業の推進には国内活動のみならず海外においても多くの制限があり、困難を背負いながらも、必要な活動は最小限完遂出来たと考えています。

2019年の本会活動40周年を節目にして、いろいろな提案が新たに出されましたが、その具体的な実行・実現は、コロナ禍という予想外の事態のもとで足踏み状態になりました。しかし、かかる状況においても、皆様のお陰で、理事会の各委員会や担当理事、更には、各世話人の方々、会員各位の努力により、それなりの活動は出来たと評価しています。

特に、コロナの影響による国内外の生活困窮者への支援活動を最優先事項として実施することが出来ました。これはコロナ支援募金に対する皆様の理解と協力の賜物と感謝しています。

海外支援活動は、現地の事態や情勢に応じて必要不可欠なものは実施、その他は中止又は延期することにしました。

運営面では国内活動の各種の制限や在宅勤務体制導入による安全対策を講じながら、理事会の各運営委員会が、それぞれの工夫と努力により着実に実施できたことに感謝しています。

以下、活動概略を事業別に報告いたします。

### I. 「開発支援事業」

当事業に関しては、各国のコロナ感染予防のためのロックダウンなどが大きく影響し、停滞した活動もあったが、「開発から取り残された人たちが抱える課題の解決を進めると共に、基本支援事業(水、教育、貧困対策、環境)4項目(詳細は下記)の実施により、現地地域の自立支援活動を行うことが出来た。

### II. 「国際交流事業」

当事業に関しては、コロナ禍にもかかわらず、アジア地域間において、活動の取り組みに対する相互連帯感の強化、励まし合いの重要性を認識することが出来、それによって、国際ネットワークの重要性を確認することが出来た。

又、スリランカで実施予定であった第30回アジア国際ネットワークセミナーは、会場をPC上に変え、オンラインにて各国現地NGOスタッフが一同に会し、共通課題を認識する共にAFSネットワークの果たす役割を確認することができた。

### III. 「災害等罹災者に対する生活支援事業」

当事業に関しては、内外のコロナ感染の影響により生活困窮者に対する各国への支援の実施が今年度も中心となった。特にインドの変異株により大きな影響を受けたインド、ネパールの脆弱な状況の人々の命及び生活を守るための支援活動を実施すると同時に、国内の外国人留学生に対する支援を実施した。継続しているネパール地震の被災地復興支援事業は、大規模揚水システム設置及び農業基盤づくり3年次事業を終了させることが出来た。また、東日本大震災の被災地へは、これまでに訪問し支援した被災地各所の視察を行い、成果の確認と評価を行った。新たな支援として、ミャンマークーデター下の市民への食料等・義援金支援を実施した。また、12月に発生したフィリピンの台風により被災した被害者への支援活動を行った。

### IV. 「普及啓発事業」

当事業においては、日本国内のコロナ感染状況及び緊急事態発令により、多くの活動を制限せざるを得なかった。しかしながら、広報企画委員会や会員活動に関する各委員会の工夫や努力により、本会の広報と支援事業に関する普及啓発が実施できた。

和歌山県新宮市で37回目の実施予定であった「土と水と緑の学校」は、コロナの状況を考慮し、今年度も引き続き実施を中止した。一方、インターンシップ希望者が増え、オンラインオフライン両方での活動により国際支

援への理解を促進できた。その他、内外の関連機関との連携がコロナ禍により一層深まり、NGO/NPO 活動の社会への広がりにも貢献することができた。

### 「運営管理」

「運営管理」に関しては、社員総会にはじめて書面決議を中心とした方式を導入、理事会もオンライン参加を導入し、安全危機管理を行いながらガバナンス・コンプライアンスルールを維持し、組織基盤の強化と経営の透明化を果たした。

活動詳細について、以下のとおり報告します。

## I. 公益目的事業 1 開発支援事業

### A. 『水事業』 - 安全な飲料水供給をめざした井戸建設支援事業 -

#### 1. 井戸・飲料水供給

2021年度は、アジア5ヶ国(インド(3)、カンボジア(19)、スリランカ(7)、ネパール(14)、バングラデシュ(9)、フィリピン(9))の農村40ヶ所に61基の井戸又はパイプラインを完成することができ、水くみやそのアクセスに長時間労働を強いられていた人々の生活環境の改善、コロナ等の感染予防や疾病予防につながる衛生環境の改善を行うことができた。

本実施により累計2,211基の井戸をアジア各地に贈ることができた。

### B. 『子ども事業』 - 貧困層の子どもたちの生活向上を目指した各種支援事業 -

#### 1. 初等教育普及・向上事業(インド、カンボジア、ネパール、バングラデシュ、フィリピン)

教育里親制度(就学資金の提供)により、上記5ヶ国の就学生380名に教育支援を行った。コロナ感染拡大により前半は学校の休校が多発したが、子ども達が教育を受けることができる環境の維持が、自宅学習を強いられる子ども達の学習継続にもつながるため、例年同様の支援を実施した。

#### 2. 教育設備・環境

- ネパール:学校校舎1棟の建設を実施する予定であったが、コロナにより現地の対応が不可能となり、実施を延期することとした。
- ラオス:ブンヌア郡公立中学校の寮の1棟の建設を行う予定であったが、コロナの関係で建設を延期した。
- バングラデシュ:老朽化した10校のトイレ再建支援を予定していたが、コロナの関係で建設を延期した。
- フィリピン:ヌエバエシハ州の2地区102名の子どもたちへ学用品支援をし、就学できる環境を整えた。

#### 3. HIV/AIDS 子ども感染予防

- インド:タミルナードゥ州のディンディガル、ナマカル2県のHIV/AIDSの子どもおよび、家族2世帯に生活補助と教育支援を行った。

#### 4. 栄養改善とストリートおよび、スラムの子どもたちの保護・教育支援

##### (1) 栄養改善(ネパール)

タライ平野の低所得地域の小学校の生徒147名に対して、学校再開の10月より月4~5回、卵と牛乳の給食支援を実施し、子どもたちの栄養状況改善を行った。栄養士育成の対象者2名の人選をおこない、次年度4月よりの日本留学が決定した。

##### (2) ストリートおよび、スラムの子どもたち支援(インド、フィリピン)

- インド: マハラシュトラ州ナグプール県のスラムの子どもたち 53 名を対象に、就学サポート(学習補講)をおこなった。
- フィリピン: マニラのストリートやスラム地区及び郊外の移住地に暮らす子どもたち 97 名への教育支援をおこなうとともに生活習慣・衛生環境改善等の啓発プログラムを実施した。

### C. 『貧困対策事業』 - 自助自立を目指して、収入・雇用を生み出す諸プログラムの推進及び指導 -

#### 1. 小規模産業育成・職業訓練

- インド: マハラシュトラ州アマワティ県の農村の女性グループを対象にした養鶏事業は、コロナの影響により実施出来なかった。
- カンボジア: 村の小規模零細事業への資金提供により農村世帯の所得向上を目指したが、コロナの影響により新規追加の実施は出来ていない。
- ネパール: インドラワティ村の農業振興活動の継続にむけて、村内において人材育成を行うために、農業専門高等学校への奨学生 1 名を選抜し 6 年間コース 2 年目支援をおこなった。
- フィリピン: ソルソゴン州の農漁村の所得向上をめざし、マングローブ植樹地の整備をおこなうと共に海ゴミ対策活動を開始し、漁場づくりを継続実施した。同時に農村地域の生活困窮者の収入向上をめざし、有機肥料による土壌改良や養殖池の設置、実地研修を行う農園づくりを開始した。
- フィリピン: アンティーケ州パンダン町の障がい者の通院や福祉機器の運搬協力、救援物資の配布を行うと共に、卒業した障がい児童の自立を目指し、再生プラスチックエコブリック製造機材を支援した。

#### 2. 保健衛生指導・医療

- インド: マハラシュトラ州ムスカ村の病院運営を支援。看護師 1 名の常駐、医師 1 名の週 1 回派遣により、定期診療できる体制をつくった。クラウドファンディングによる支援金調達により、酸素濃度計や血圧計、車椅子など不足していた医療機器を導入し、医療基盤を整えた。
- ネパール: シンドウパルチョーク郡、カトマンズ郡、ナワルプル郡の農村地域の女性に対し健康維持できるように講習と生理用ナプキンの配布を継続的に行っているが、コロナにより実施出来なかった。地元でナプキン制作し普及を目指すため、女性 6 名に製作の基礎講習を行った。

#### 3. 提携 NGO 運営助成

本会の現地提携団体の運営及びマネジメント強化の為に、インド(RUDYA、HDSI)、カンボジア(KAFS)、スリランカ(SARVODAYA)の運営支援と活動強化を行った。

### D. 『環境事業』 - 自然環境保全、及び再生に必要な諸活動の支援 -

アジア 5 カ国において 10,910 本の植林を実施した。地域の森林減少への歯止め、そして農業により生計を立てている農村地域の持続性に繋げる環境整備を行った。詳細は以下の通り。

#### 1. 植林・水源涵養林養育支援

- インドネシア・アチェ: 2004 年のスマトラ沖大地震による津波被害の記憶の風化を防ぐために、防潮林としてのマングローブ 6,000 本の植林と、地元の小・中学校での海の環境保全教育、限られた資源を守るための環境活動を 2 か所で延べ 3 日間行った。加えてポスター掲示による環境教育や河川と海の清掃活動も実施した。  
(2020 年度公益信託地球環境基金助成事業)
- ネパール: 地域の森林地を守ると共に新たな憩いの場を創造する事業として、コミュニティーフォレスト内に村民のための公園づくりをめざして 750 本を植樹した。また、コーヒー栽培による緑化活動を新たに開始し、日陰樹 100 本とコーヒー苗 200 本の植樹とコーヒー苗の育苗 10,000 床を行った。  
(令和元年度および令和 2 年度「緑の募金」公募事業)

- バングラデシュ:ノンフォーマル教育を受ける学校の子どもたちへの環境教育と緑化活動を目的に、4 県 4 校で 4,586 人が学校とその周辺にジャックフルーツの苗木 3,000 本を植林し、地域の緑化をおこなった。  
(2021 年度「連合・愛のキャンパ」中央助成事業)
- フィリピン:アンティーク州バンダン町の水源の水源地の森保全のために苗木づくりを実施した。
- スリランカ:ラトナプラ県の 5 地区にて果樹等 660 本を植林し、青少年が育成に携わる活動を推進した。

## 2. 環境改善・市民による環境保全活動(国際グリーンスカウト運動)

1986 年に発足した本会提唱の環境保全市民運動(通称、グリーンスカウト運動)は、現地提携団体を中心に様々な地球環境保全活動が 4 か国で行われた。

- インド:マハラシュトラ州のジョンズ・スクールにてのグリーンスカウト啓発プログラムを実施。同時に 200 本植林した。
- ネパール:インドラワティ村のゴミ問題を解決するために、環境ジュニアリーダー及び地域リーダーが分別のゴミ処理の講習を受け、焼却炉兼ゴミ箱を 10 か所に設置した。  
(りそなアジア・オセアニア財団環境プロジェクト助成事業)
- ネパール:小学生の環境セミナーがコロナの影響で実施できなかったが、2 ヶ村4校にて3R 活動、地域及び学校清掃美化活動、植林活動などのグリーンスカウト運動推進をおこなった。
- フィリピン:各地域で環境学習や清掃活動を行い、グリーンスカウト運動を推進した。
- スリランカ:学校を拠点に環境学習や清掃活動に取り組み、グリーンスカウト運動を推進した。

## 3. 再生可能エネルギー資源活用支援事業

ネパールにおいて、森林破壊の歯止めと薪の代替燃料確保のため牛糞発酵によるバイオガスの普及を実施。シンドゥパルチョーク郡に新たに 20 世帯に 20 基のバイオガスプラントを設置した。この 20 基により新たに薪の使用量を年間当たり約 51、2 トン削減でき、100 トンの二酸化炭素排出を抑えることにつながった。(一部、りそなアジア・オセアニア財団環境プロジェクト助成事業)

## F. ワークキャンプ、プロジェクト視察

ワークキャンプはコロナの影響により全て中止。アフターコロナに向けて現在実施可能な活動の相談会を各関係団体と実施した。プロジェクト視察に関しては、ネパールに 3 回の視察を実施した。本視察は外務省令和 2 年度日本 NGO 連携無償資金協力(N 連)による実施事業を目的に行われた。

## II. 公益目的事業 2 国際交流支援事業

### A. 人材交流・育成事業

1. 将来の本会のネットワーク事業を担う各国各部会の職員の研修、育成のために奨学金支援を行っている。フィリピンのアジア社会科学院(ASI)の地域開発コースがコロナ禍のためオンライン開催されたが、対象者がいなかったため奨学金支援は行わなかった。

インドの HDSI が持続的な活動をするために HDSI の後継者 1 名のナグプール大学社会開発学科 3 年目の奨学支援を行った。

### 2. 海外ボランティア研修制度

コロナウイルス感染状況を鑑み、募集を行わなかった。

### B. ネットワーク推進事業

## 1. 国際会議

### (1) アジア国際ネットワークセミナー

第30回アジア国際ネットワークセミナーをスリランカにて予定していたが、今年度もコロナ感染拡大のため中止した。その代替として11月30日に10ヶ国38名が参加したオンライン会議を行い、コロナ禍における各国のチャプターの近況報告と情報交換を行なった。

### (2) アジア・ユースサミット(AYS)

第7回アジア・ユースサミットを「地域を良くするプロジェクトを創ろう」- コロナ禍で私たちにできること- をテーマに、8月28・29日に基調講演やグループディスカッションをオンラインにて行い最終的にAYSコミュニティ総合政策をつくった。その後、9月18日に宣言文を採択し、各地域におけるユースの役割を共に確認した。高校生たちが参加にあたり作成したプロジェクトは、事前にWEB上に限定公開して審査をおこない、最優秀賞、優秀賞、オーディエンス賞を受賞したプロジェクトへ活動応援を行った。

### (3) 国際ネットワーク機能強化事業

上記のアジア国際ネットワークセミナーのオンライン会議のための企画・事前リサーチから運営までを行い、ネットワーク機能の維持・強化を推進した。

### (4) アジア・フレンドシップ夢基金

貧困なきアジア社会の実現を目指して発足したアジア草の根の自立・連帯基金。2021年度も、募金のための世話人会を設けて、「夢基金」という名目で国際基金募金に協力した。

### (5) アジア・フレンドシップ財団

インド、タイ、日本の実業家を中心に、マイクロクレジットの国際版を行う計画だが、コロナのため延期となった。

## 2. 国際体験交流(スタディツアー等)

コロナウイルス感染症の影響により、実施計画を行わなかった。

## Ⅲ. 公益目的事業 3 災害罹災者に対する生活支援事業

### 1. 災害等罹災者支援事業

#### (1) ネパール中部地震 災害復興支援

2015年4月25日のネパール中部地震の復興及びその後の持続可能な地域づくりを目指し、シンドゥパルチョーク郡の根本的な水の不足を解決するために、外務省の「令和2年度日本NGO連携無償資金協力(N連)」から資金供与を受け最終年度事業を実施した。揚水システム設置と農業基盤づくりを行う大規模な復興支援事業の3年目事業を実施し、2019年度完成した揚水システムの本線から西側の475世帯に配水するための給水用貯水タンク5基、農業用貯水水槽7基及びパイプの敷設を完成させることができた。これにより、インドラワティ村10地区の1000世帯のために、貯水井戸より700メートル高所に揚げる4ヶ所の中継タンク及び送水ポンプ、合計4,582メートルのパイプで最大75,000Lのタンクに揚水できるようになった。その水を総合計29,758メートルのパイプから、12集落のための飲料水タンク、21エリアのための農業用水タンクに水を満たすことができ、今後、地震復興よりの持続的な地域づくりのための基盤がととのった。

#### (2) 新型コロナウイルス感染症対策支援

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)拡大に伴い、前年度より、職を失った人、経済的困窮により日々の食事さえ出来ない人々への支援を行い、命を守ってきた。今年度は早々にインド変異株の感染拡大の影響をインドとネパールが受け、大変な混乱と生活への不安を訴える人々が続出し、インド

17ヶ所、ネパール2ヶ所へ18提携団体を通じて支援した。支援は主に食料品と衛生用品配布だったが、一か所には救急車を支援し、地域の感染者搬送へ役立てる活動を行った。同時に衛生啓発活動も実施した。国内の留学生の生活支援を引き続き実施し、16人に対して生活費の一部を支援した。募金総額 8,346,675 円(2022年3月末現在)。続くコロナ下において、命を守り、生活を守るために必要な支援を実施できた。

インド変異株感染拡大期の支援は募金が追いつかず、JPF「新型コロナ インド変異株危機対応支援プログラム」の資金により、7月26日～11月27日まで、マハラシュトラ州において、政府の支援が行き届いていない、ガッチロリ県の農村地域とナグプール県のスラム地域を対象に食糧支援、衛生啓発活動支援、医療支援の3分野の支援を実施した。

### (3) フィリピン台風被災者支援

2020年度の大型台風22号(ユリシーズ)の被災者への復興支援と共に、12月16日～18日に横断した台風ライの被災者支援を実施し、パナイ島の7地域550世帯へ米、缶詰め、毛布、衛生用品などの物資配布支援を実施した。

### (4) 東日本大震災支援

東日本大震災の記憶の風化を防ぐと共に、未だ復興のために懸命な現地の人々を支えることを目的に、パナソニックグループ労働組合連合会と共に2014～19年に7回実施したスタディツアーで訪問した被災地各所の視察を行った。植林のその後の状況を視察し、無事保全されていることが確認できた。

### (5) ミャンマー支援

ミャンマー クーデター下の市民への食料等、義援金支援を、現地提携メンバーを通じて実施した。

## IV. 公益目的事業 4 普及啓発事業

### A. 地域広報活動事業

#### 1. 本部活動

##### (1) JAFS チャリティプログラム

本会の活動に様々な形で一般市民に加わってもらえるようチャリティ企画を行った。恒例の春と秋のJR住道駅前(大阪府大東市)のJAFSチャリティバザールは、コロナ感染拡大のため中止した。また「アジア・チャリティフェスティバル」は6年目を迎え、公益財団法人大阪国際交流センターとの3度目の共催で開催。コロナ感染拡大のため、入場者数、飲食の出店やステージ内容を制限して実施した。映画上映会や、留学生によるパネルディスカッション、ゲームによる交流などを実施し、多文化共生の観点から在関西のアジア系市民との交流を深めるチャリティイベントとして130名の参加者があった。その他、それぞれ各地区活動の支援趣旨のもと、チャリティイベントやコンサートを実施した。

##### (2) 国際理解教育講座

国際理解教育に関し、学校及び団体へ講義を行った。コロナウイルス感染症の影響によりオンラインにての開催と併用しながら例年に引き続き、小学校、高校、大学、企業への講義を実施。幅広い社会層の人たちへの国際理解推進につながった(講師派遣のべ12ヶ所、参加生徒・団体員数401名)。その他、学校からの委託により授業を受け入れ、講義を実施(1校16名)。

##### (3) 国際ボランティア啓発活動

JAFS ぞうすいの会や地区活動などにて、適宜、海外プロジェクト報告を行い、特に、ネパール駐在員の帰国後報告など海外への渡航制限の中、現地報告を行うことにより、プロジェクト理解の促進やアジア社会の現状の理解につながった。

(4) アジア文化理解講座

日本に住むアジアの人々と共に、異文化理解講座等を実施し多文化共生社会の実現を計画していたが、コロナの影響により、多くのプログラムが中止または延期となった。

(5) 研修生・実習生受入プログラム

大学生の個人応募による4名、大学及び大学院単位履修のため2名、計6名が本会での活動を通じて、国際協力団体の活動内容及び市民運動体の運営に関して学び、海外プロジェクト後方支援やファンドレイジング・広報事業の実習を通し、事業推進に貢献する活動を実施した。コロナ感染症の影響を受け、オンライン研修が多かった。

(6) 法人関連プログラム

今年度も、コロナ感染拡大のため、例年開催しているセミナーは実施しなかったが、アジアからの留学生支援の一環として、第2回日本語スピーチコンテストをサポートした。

(7) JAFS 社員クラブ

今年度も、コロナ感染拡大のため、例年開催しているセミナーは実施しなかったが、第2回日本語スピーチコンテストをサポートした。

(8) JAFS アジア市民大学

JAFS 創立40周年記念行事の一環として、政治・経済・自然・社会・文化など多角的に一味違うアジアを探求する場として、2019年1月に開学。今年度はコロナ禍により延期された第2期の第11-12回と第3期第1-9回の合計11回の講座を実施した。専門的視点からアジア個々の国の文化理解に向けた講義と相互交流が行われ、11回で延べ203名が受講した。

(9) 日本語スピーチコンテスト

アジアと日本の絆を深める活動の一環として、40周年記念行事として2019年に第1回を開催。昨年度はコロナ禍対策のため、留学生と支援者との交流会だったが、今年度は第2回日本語スピーチコンテストを10月3日に開催し、15名の留学生が出場、合計50名が出席した。

(10) JAFS SDGsセミナー

サステナブルな未来のために私たちができることは何かを考えるために、テーマについての実践者や専門家の方々よりお話を聞き行動することを目指す、JAFS SDGs オンラインセミナー第2弾「私たちの暮らしから考えるSDGs」を2022年2～5月に5回シリーズで企画。その内2021年度内に3回実施した。

(11) JAFS グローバルコミュニティ・カレッジ(GCC)

「今、地球は危ない」をテーマに、グローバル化した地球で起きている様々な問題について解決の糸口を共に考える勉強会を10月と11月の合計2回開催した。

(12) 関連プログラム/その他団体協力

関係団体と連携の中、理事、評議員、運営委員、講師として協力。関西のNGO活動の推進のため、関西NGO協議会(KNC)の理事(副代表)、国際協力NGOセンター(JANIC)の理事、関西国際交流団体協議会は監事として関わり、各ネットワークNGOを通して市民組織活動の社会意義を広げる活動に関わる。加えて関西最大の国際協力のお祭り「ワン・ワールド・フェスティバル」は実行委員会メンバー、ユース世代のための国際協力フェス「ワン・ワールド・フェスティバル for Youth」には運営委員として協力したが、いずれもオンラインにより実施された。その他多くの関係団体との繋がりの中で本会の活動の更なる推進と関西最古のNGOとしての役割を担った。

## 2. 地区活動

本会の活動がより多くの人たちによって支援されていくためには、様々な地区活動が必要で、地区世話人を中心に広報、ぞうすいの会、ウォーカーソン、コンサート等が企画されたが、今年度はコロナ感染拡大のため、多くのイベントが中止を余儀なくされた。一方、各地区会ごとに会長・副会長・事務局長・書記からなる組織をさらに整え、7月3日に地区会長会を実施したほか、会員拡大を多角的に考える会員拡大諮問会議を8月から1月にかけて合計5回開催し、延べ67名が参加。今後の会員拡大に向けて新たな方策を議論した。

## 3. 広報

### (1) 機関誌

本会活動情報誌「アジアネット」を年4回(各4,300~4,600部)発行し、事業報告と海外情報などを提供した。またコロナ禍中のアジアの様子を紹介し、コロナ募金への協力を呼びかけた。新規の支援者を増やすべく、全国の国際関連施設の情報コーナーなど公開スペース向けにも送付した。ホームページ上でも公開した。

### (2) ホームページ・SNS

ホームページについては、リニューアルから1年半が経過した時点で改善が必要な点を検討し、寄付募集関連を中心に改良した。プロジェクト一覧も見やすく改善した。フェイスブックやインスタグラムなどのSNSやYouTubeによっても、本会の活動状況、ニュースやイベント情報、アジア文化情報などを、随時更新し発信した。

## 4. プロジェクト支援(支援会・ファミリーグループ)

各支援会、ファミリーグループなど15グループが様々なイベントやチャリティ活動を実施し、本会の支援事業の応援を、コロナ感染対策を講じながら精力的に展開した。

## 5. 関連市民活動

関西ナショナル・トラスト協会、日本を良くする会、グリーンベイ OSAKA の活動もそれぞれの設立趣旨の下、活動が行われた。

## B. 環境保全・啓発教育事業

### 国際グリーンスカウト活動

#### (1) 「土と水と緑の学校」

第37回「土と水と緑の学校」を和歌山県新宮市にて8月5日~10日に開催する予定であったが、今年度も新型コロナウイルス感染拡大のため中止した。

#### (2) 美山「土と水と緑の自然学校」

美山「土と水と緑の自然学校」を京都府南丹市美山町にて3月下旬に開催をする予定であったが、今年度も新型コロナウイルス感染拡大のため中止した。

#### (3) 国際グリーンスカウト国内活動

本会が提唱した国際グリーンスカウト(“Clean & Green”の標語の下で、地球環境保全を地域で推進する)活動として、アジア各地のグリーンスカウトメンバーが活動を行っている。地域活動にリンクさせながら活動を実施しているがコロナ感染症の影響により、活動中止が多発した。吹田部会は、4月、7月、10月以降は毎月1回例会と糸田川清掃活動を実施した。日本とアジア諸国が共にゴミ問題に取り組む“AFSブルーオーシャンレンジャー”活動を新たに開始し、11月20日に日本とフィリピン・インドネシア3ヶ国5地域で同時に海辺のゴミを回収するクリーンアップ活動を行った。

## V. 運営管理

第10回定期社員総会を6月12日に実施した。本年度も、理事会(4回)を開催、事業や運営の課題について話し合った。それに伴い、各常置委員会を委員長はじめ委員により、コロナ禍で活動制約中適宜委員会を開催し、運営管理をおこなった。

- ・公I(開発支援事業)委員会(委員長 福澤 邦治)  
:5月、7月、9月、12月、2月、3月 計6回
- ・公II(国際交流)委員会(委員長 西田貞之)  
:5月、9月、11月、2月 計4回
- ・公III(災害罹災者に対する生活支援)委員会(委員長 藤原正昭)  
:5月、6月、7月、9月、11月、12月、2月 計7回
- ・公IV(国際協力に対する理解を深め、支援を得るための普及啓発事業)
- 1. 広報企画委員会(委員長 法花敏郎)  
:4月、5月、6月、7月、8月、9月、10月、11月、12月、2021年1月、3月(2回) 計12回
- 2. 会員拡大・地域広報活動委員会(委員長 齋藤公代)  
:4月 1回  
地区会長会7月 1回、会員拡大諮問会議 8月、10月、11月、12月、1月 計5回
- 3. 企画事業委員会(委員長 沖田文明)  
:4月、6月、9月、11月、12月、2月 計6回
- 4. 国際理解・文化事業委員会(委員長 實 清隆)  
:4月、9月、12月、3月 計4回
- 5. SDGs活動委員会(委員長 松原 正)  
:5月、6月、7月、11月、2月 計5回
- ・特別委員会
- 1 政策審議委員会(委員長 井上勇一)  
:9月、12月 計2回
- 2 経営企画戦略委員会(委員長 米田明正)  
:9月、12月、2月 計3回

法人管理部門

総務財務委員会(委員長 櫻井紘哉)

:4月、5月、6月、7月、9月、10月、11月、12月、2021年1月、2月、3月 計11回

それぞれが今年度も公益法人としての、ガバナンス、コンプライアンスルール強化を行った。

以上を以て2021度の活動事業報告の概要を報告いたします。

# I. 開発支援事業

## I-A. 水事業

### 1. 井戸・飲料水供給

(2022年3月現在)  
(パイプライン・貯水タンクを含む)

国名	2021年度完成	累積
インド	3	503
インドネシア	-	45
カンボジア	19	480
スリランカ	7	144
タイ	-	88
中国	-	1
ネパール	14	292
バングラデシュ	9	175
パキスタン	-	8
フィリピン	9	427
ブルキナファソ	-	1
ミャンマー	-	26
ラオス	-	21
合計	61	2,211

#### ●インド

**RUDYA** マハラシュトラ州ガッチロリ県 **1基**  
 ボンプ式井戸 **1基**  
 ガッチロリ地区ランプリ村

**SSH** タミルナドゥ州 **1基**  
 ボンプ式井戸 **1基**  
 ナマカル県ミンナバリ村チャイルドプランアカデミー  
 科学室内

**BSVIA** カルナータカ州 **1基**  
 ボンプ式井戸 **1基**  
 ビジャプーール県バサバナゲワディ地区インゲールシュワー村

#### ●カンボジア

**KAFS** タケオ州 **19基**  
 露天式井戸 **19基**  
 トレアン郡ロネアム地区ソフィ村(2)  
 トレアン郡プレイスルック地区スレチョローク村(2)  
 トレアン郡プレイスルック地区プレイスルック村(2)  
 トレアン郡クバブ地区ドゥンプー村(4)  
 トレアン郡クバブ地区サモールクロム村(3)  
 トレアン郡ロネアム地区トラペアン・クノル村(2)  
 トレアン郡ロネアム地区トラペアン・クレイ村(2)  
 トレアン郡クバブ地区サモール・ロイ村(2)

#### ●スリランカ

**SARVODAYA** サバラガムワ州 **5基**  
 露天式井戸 **5基**  
 ラトナプラ県エンビリピティヤ地区ダリカヌワ カツワマダマ村  
 ラトナプラ県エンビリピティヤ地区ブラトワルカンダ村  
 ラトナプラ県エンビリピティヤ地区ワラルゴダ ヴィサミトゥラ村  
 ラトナプラ県エンビリピティヤ地区ゲージャヤ D17 エラ村  
 ラトナプラ県エンビリピティヤ地区ゲージャヤ ヤヤ2村

**SARVODAYA** 東部州 **2基**  
 露天式井戸 **2基**  
 アンパーラ県ダマナ マハウエラ村  
 アンパーラ県 マハウエラ村

#### ●ネパール

**AFS-ネパール** ネパール全域 **14基**  
 パイプライン敷設 **1式**  
 ネパール シンドウパルチョーク郡インドラワティ G.P.  
 Word No.10 ボテシパ

ボンプ式井戸 **4基**  
 ネパール ガンダキ・ブラデーシュ(第4)州 ナワルプル郡  
 カワソティ市第13区ゴイリ村 ナヤバスティ地区

簡易水道付パイプライン式井戸 **8基**  
 バグマティ県シンドウパルチョーク郡インドラワティ G.P.  
 Word No.9 シンパタール (8)

集水用貯水タンク **1基**  
 バグマティ県シンドウパルチョーク郡インドラワティ G.P.  
 Word No.9 シンパタール (1)

#### ●フィリピン

**KALIPI** スエバエシハ州 **8基**  
 ボンプ式深井戸 **8基**  
 カラングラン町ブンガ村  
 カラングラン町ジェネラルルナ村シティオ カマンガハン  
 カバナトゥアン市マキャットボン村 No3 ブロック  
 カバナトゥアン市マキャットボン村 No4 ブロック  
 カバナトゥアン市マキャットボン村 No6 ブロック  
 カバナトゥアン市マキャットボン村  
 タビングダン地区 No6 ブロック  
 ジェネラルマメルトナティビナート タラブタブノルテ村  
 ジェネラルマメルトナティビナート マナログ村  
 シティオ パントック

**AFS-UMD** ソルソゴン州 **1基**  
 簡易パイプライン式井戸 **1基**  
 マトノグ町ポロバンダン村

## ●バングラデシュ

BDP

### ポンプ式井戸 9基

- ネトロコーナ県ロイプール地区ノアパラ村  
ノアパラ BDP 小学校内
- ネトロコーナ県タクローナ地区スワリカンダ村  
スワリカンダ BDP 小学校
- ジャマルプール県ゴラダップ地区ジョカ村ジョカ BDP 小学校
- ジャマルプール県バスチャーラ地区バスチャーラ村  
バスチャーラ BDP 小学校
- ジャマルプール県バクシガンジ郡ダルアカマルプル地区  
ドゥムルトラ村ドゥムルトラ BDP 小学校
- ジャマルプール県シュリープル地区ビシュノプル村  
ビシュノプル BDP 小学校
- ジャマルプール県ラナガチャ地区クマリア村  
クマリア BDP 小学校
- ガジプール県バシュガオン村バシュガオン BDP 小学校
- ガジプール県サマルシン村サマルシン BDP 小学校

### 建設中の井戸 22基

- インド 2基
- カンボジア 0基
- スリランカ 2基
- ネパール 8基
- バングラデシュ 2基
- フィリピン 8基
- ミャンマー 0基



インド ビジャプーラ県 井戸から水をくむ村の女性たち



バングラデシュ ジャマルプールに完成した井戸に喜ぶ子どもら



インド 井戸を建設する様子ガッチロリ県ガッチロリ地区ランプリ村



ネパール 地域に水場ができて喜ぶシンドバルチョークの村人



スリランカ 多くの村人が完成を待ちわびていた井戸



フィリピン 安全な水を得て子ども達が健康で過ごせるように

## I-B. 子ども事業

### 1. 初等教育普及・向上

#### (1) アジア里親の会

子どもたちの健全な育成に必要な教育。そして、子どもたちは教育を受ける権利があり、大人はそのための環境を整えなければなりません。しかし、アジア地域では経済的理由や教育を受けることが困難な状況により、今なお学校に定期的に通えない子どもたちが多くいます。本会では、一人でも多くの子どもが、就学により確実に教育を受けることができるように、インド、カンボジア、ネパール、バングラデシュ、フィリピンの子どもたちを里子、日本側支援者は教育里親としてサポートする。

近年、就学適正年齢での入学者の向上、女子教育に対する理解は改善されつつあるもコロナによる経済困窮や経済発展が目覚ましいアジア諸国多くにおいて途中退学が増加している。生活を支えるために働くことを選ぶ子ども、選ばせる親が増える。しかし、最終的には貧困のサイクルから脱出できないことが多く、就学継続により、知識や思考力を養うことが、将来を築く力となることへの理解促進や啓発が必要である。

また依然として教材不足、低質な教育内容、教員不足など様々な問題・課題が山積みで、その改善には地域(コミュニティ)を巻き込んだ学校教育の確立を行っていく必要性がある。

本支援では、里子の学費や学用品、彼らが通う教育施設の運営を支援。同時に里親と里子が手紙を通じての相互交流を行った。2021年度は423人の里子を支援。里親の存在が里子たちの心の支えになり、学習への意欲や将来への希望を見出すなど、良好な方向に導くことに繋がっている。特に、コロナウイルス感染症の影響を受け休校が続いた状況下での支援は、里子・学校側両方へ大きな支えとつながり、自宅学習の励みへとつながった。

アジア里親の会 里親決定状況 (2022年3月現在)

国名	2021年度里子数	里子累計数
インド	142	461
カンボジア	51	225
ネパール	130	292
バングラデシュ	36	243
フィリピン	21	33
合計	380	1,254

#### ●インド

##### **BSVIA 教育支援事業** 74名

【カルナータカ州ビジャプーラ県ブルナプール村】

アジア里親の会の支援を通して、日印友好学園コスモニケタンの教職員の給与、教材、制服、文具などの運営の一部を支援した。

##### **SSH 教育支援事業** 7名

【タミルナドゥ州ナマカル県】

家庭の事情により学校に通えない小学生、特に家族や両親、子ども自身がHIVに感染し、差別を受けている子どもたちを対象に、より多くの子が学校へ通えるために学費や制服代、学用品などを支

援。加えて子供たちカウンセリングプログラムを実施しケアを行っている。(累計70名)

##### **RUDYA 教育支援事業** 30名

【マハラシュトラ州ガッチロリ県パダトラ村】

日印友好学園パダトラ小学校に通う少数民族の子どもたちへの教育支援。遠方からの就学者に対しては寮にて生活できる体制を作り、通学困難により離学することを防ぎ、就学率の向上を目指している。

##### **AFS-Nagpur 教育支援事業** 31名

【マハラシュトラ州ナグプール県】

スラム街の子どもたちが継続的に就学し、教育を受け自立を促すことを目指したチャイルドアカデミーへの支援。加えて就学に必要な文具配布や読み書き教室を実施して、子ども達の学習意欲とモチベーション向上を目指した活動をおこなった。

#### ●カンボジア

##### **KAFS 教育支援事業** 51名

【タケオ州】

タケオ州の小学校、中学校、高校の運営支援および、子どもたちへの教材や年一度の校外学習の支援。里子を含めた村の子どもたちを対象とした英語の課外授業の支援。

#### ●ネパール

##### **AFS-Nepal 教育支援事業** 20名

【ナワルプル郡カワソティ市ピトゥリ村】

ピトゥリ村のスリーサンティ小学校、ラーズラトナ小学校、ピトゥリ小学校の就学対象者の中で自費就学が不可能な子どもへの学費支援(継続就学と高校教育修了)と学校運営支援を実施した。

##### **AFS-Nepal ナウリンセカンダリースクール** 80名

【カトマンズ郡ブタニルカンタ市チュニケル村】

チュニケル村の自費就学が出来ない貧農民や移住労働者の子どもたちが安心して就学できるように、学費支援と学校運営支援を実施した。

##### **AFS-Nepal ボテシバ村 教育支援事業**

**チャンデスウォリ H.セカンダリースクール** 5名

**AFS-Nepal サラソワティ L.セカンダリースクール** 16名

【シンドウパルチョーク郡インドラワティ G.P.Word No.10 ボテシバ】

2015年の中部大地震により大きな被害を受け、家屋倒壊により経済状況が悪化した世帯や親を亡くした子どもたちの就学支援を引きつづき実施。高等学校卒業まで就学できるよう学費支援と学校運営支援を行った。

##### **AFS-Nepal バクタプール教育支援事業**

**クリエイティブ イングリッシュ セカンダリースクール** 9名

【バクタプール郡バクタプール市】

2015年の大地震で大きな被害をうけ、その後経済状況が困難になった学生たちが就学を継続でき、10年生(中等教育終了学年)を修了し高等教育に進学するまでの支援を行った。

#### ●バングラデシュ

**BDP 教育支援事業 36名**

【ダッカ・ガジプール県】

規程の小学教育を受けられない地域の子どもたちを対象に、中学校以上の就学を推進すると同時にしっかり学び高等学校卒業をめざした支援。特にバングラデシュでは小学校卒業以上の就学費の個人負担額が多くなるために中学校以上の就学率が下がる。そのため就学意欲のある子どもが継続的に就学できるよう、支援を行うと同時に教育向上を目指し補習の受講支援をおこなった。

●フィリピン

**ASI 教育支援事業 21名**

【カビテ州ダスマリネス町パリパラン】

【マニラ市マラテ町サンアンドレス】

マニラ市郊外のダスマリネス町パリパランに強制移住させられた家族の子どもたちと、彼らの元居住地であった国鉄線路沿いの地区、サンアンドレスにて移住先のない家族の子どもたちが、継続就学できるように、授業料、教科書、教材、学校補習等を支援した。

**2. 教育設備・環境整備**

(1) 学校建設

(2022年3月現在)

国名	2021年度建設数	校舎棟累計数
インド	0	24
インドネシア	-	2
カンボジア	0	42
タイ	-	10
中国	-	1
ネパール	0	※44
パキスタン	-	2
フィリピン	0	8
ベトナム	-	3
合計	0	136

※学校及び研修施設、コミュニティホール数を含む

●ネパール

**AFS-Nepal 小中学校増設及び設備支援**

ナワルバラシ郡にて学校校舎建設を実施予定であったが、コロナウイルス感染症の影響により、建設実施が来年度に延期になった。

●ラオス

**LAFS 学生寮建設支援**

ブンヌア郡の公立中学校に通う遠方の山間地域の生徒たちが就学するために必要な寮の建設を予定していたが、コロナウイルス感染症の影響により、建設実施が来年度に延期になった。

(2) 教育環境整備

●バングラデシュ

**BDP トイレ建設**

【ボリシャル県、ネトロコナ県】

BDP の運営するノンフォーマル小学校の学校が老朽化し学校運営上立て直しを行う必要がある。21校分の建設が必要であるが、コロナウイルス感染症の影響により、建設実施が来年度に延期になった。

●フィリピン

**KALIPI 教育支援**

【ヌエバエシハ州】

コロナ禍のために家庭の収入が減り、教育のために必要な学用品をそろえることができない農村の子ども達を対象に、学用品を支援した。ジェネラルマメルトナティビダード シティオパントック村の26名とカビアオ町サンフェルナドスール村セントジョセフ ガワットカリガ地区の76名の子ども達に寄贈され、継続して学べるようになった。

**3. HIV/AIDS 子ども感染予防**

●インド

**SSH HIV/AIDS 支援**

2世帯

【タミルナードゥ州デインディガル県・ナマカル県】

家族の一員がHIV/AIDSに感染し、安定した生活を送ることができず、子どもへの教育継続のままならない世帯に対して、栄養食の配布、抗HIV/AIDSウィルス薬の定期接種、HIV/AIDSに感染しながら生活するためのトレーニング、マイクロクレジットを支援している。今年度は、タミルナードゥ州ナマカル県、デインディガル県の農村2世帯を支援した。

**4. 栄養改善・ストリートチルドレンの保護・教育支援**

●ネパール

**AFS-Nepal 栄養改善支援事業 小学校給食**

【ルンビニ県ナワルブル郡カワソティエ-N.P.ピトゥリ村】

ネパールは自給率がほぼ100%であるが、暮らしの中で、自給できる食物での食事づくりです。その食品種は少なく、日常の食事から摂取できる栄養素に偏りがある。食品種を増やすなどの工夫ができないその原因は大きく二つあり、一つ目は経済的な要因。二つ目は栄養への理解不足。小学校での給食と栄養知識普及を行うことで、子どもたちの健康や成長不全状況が改善されることを目指している。農村部ではカロリー確保するために炭水化物中心の食生活で、成長期の子どもたちに必要なたんぱく質をはじめとした栄養素の摂取が不十分である。ピトゥリ村スリーサンティ小学校の約147名の生徒を対象に、週に一度、卵と牛乳の給食を継続的に支援(27年間)。教育的要素を兼ねたプロジェクトとなっている。継続支援を行う事で就学児童たちの健全な学校生活と健康保全に繋がっている。新型コロナウイルス感染症の影響により休校期間が長いたが10月以降給食を再開した。また、地方地域の栄養を改善するための栄養指導者となる栄養士育成対象者2名の来日決定し2022年4月より日本の栄養士過程で学ぶため日本語学校への入学が決定した。

## ●インド

### AFS-Nagpur チャイルドアカデミー

【マハラシュトラ州ナグプール県】

スラム街の子どもたちが継続的に就学し、教育を受け自立を促すことを目指した支援。地域の子も達 132 人への学習補講支援を行う事での就学サポートをおこなった。

## ●フィリピン

### ASI ストリートチルドレン支援

【カビテ州ダスマリネス町バリパラシ】

【マニラ市マラテ町サン・アンドレス】

マニラ市サン・アンドレスにて、廃材でつくられた家で生活を送る世帯、またバリパラシに強制移住させられ、安定した経済状況を送ることが厳しい世帯の子どもたちに対して、継続した教育が受けられるよう、支援を実施。コロナ禍でさらに生活が厳しくなり、路上に戻ってしまう子どもが多い中、今年度は 97 名の子ども達への学用品等の支援、学校の通えない子どもたちのための補習授業、感染拡大させないための衛生・環境教育、リーダーシップトレーニング等を実施した。子どもたちが自信と希望をもって物事に取り組めるよう、活動した。また保護者への話し合いもおこない、子ども達が継続して学べる環境を整えることができた。



ネパール 学校が再開し給食に喜ぶ子どもたち



インド・パダトラ小学校 支援物資を受け取る子ども



バングラデシュ 感染対策をしながら授業を受ける子ども達



カンボジア 学用品を受け取る学生たち



フィリピン 文具を受け取って喜ぶ子どもたち

## I-C. 貧困対策事業

### 1. マイクロクレジット支援・能力開発

#### (1) 小規模産業育成支援

##### ●インド

###### HDSI 低所得層の女性による縫製を通じた生活改善

【マハラシュトラ州アムラワティ県】

女性の自助グループ(SHG)を対象に、縫製訓練を実施予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響を受け中止。

##### ●カンボジア

###### KAFS 貧困層の村への開発支援資金(旧マイクロクレジット)

【タケオ州ドーンケオ郡、トレアン郡】

「貧困層の村への開発支援資金」として、村の開発委員会に供与される資金を村人に無利息にて資金を貸付する形で実施予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響を受け中止。

##### ●ネパール

###### AFS-Nepal 小農家自立支援

【シンドウパルチョーク郡インドラワティG.P.10地区(旧ボテシパ村)】

農業による暮らしが成立せず出稼ぎや移住が多発する農村部の人々が安定収入により暮らしが成り立つことを目指し、持続可能な地域づくりを目指して農業支援を実施。地震復興支援としての有機農業基盤づくりのための20集落のリーダーによる農業組合の設立と共に、将来的に地域のために農業指導者となる青年1名の農業専修学校への授業料サポートを実施した(6年間コースの2年目)。

##### ●フィリピン

###### AFS-Sorsogon, UMD 漁民及び農民への小規模産業育成支援

【ソルソゴン州マトノグ町ゲナブラン村他7ヶ村、ソルソゴン州マトノグ町シティオパド トゥガス村】

沿岸地域の養殖開発や薪のために失われたマングローブの森を取り戻し、漁業に携わる人々が持続的に魚が生息する漁場づくりのために植林したマングローブのメンテナンスや苗床づくりを継続しておこなった。各村々で自主的に協力しておこなうことで環境保全の意識が高まっている。また、マングローブの成長を妨げていたプラスチックゴミ等の回収と海に廃棄しない活動を開始した。コロナの影響で、収入が減る一方で物価は上がっており、困窮する農民が増加。村の中で生計につながる農業をおこなえるよう、有機肥料による土壌改良や多種多様な苗木の生産に加え、養殖池の建設や青少年達の実地研修もできる農園作りも開始した。

#### (2) 職業訓練

###### AFS-Pandan 障がい者支援

【アンティーク州パナイ島パンダン町】

障がい者や家族の生活は、コロナによる失業や行動制限によりさらに厳しいものとなった。パンダン障がい者協会のメンバーが中心となって、必要とされる定期的な通院や福祉機器の運搬の協

力をおこなった。仕事を失った家庭への救援物資の配布や医薬品と食料を購入時に割引を受けられる障がい者IDカードの発行を引き続きおこなった。卒業した障がい児童の自立を目指し、使用済みプラスチックの再生によるエコブリックを製造機材を支援し、生産する体制がつけられた。

### 2. 保健衛生指導・医療

#### (1) トイレ建設

(2022年3月現在)

国名	2021年度完成	累積
インド	-	1,205
カンボジア	-	4
バングラデシュ	-	275
パキスタン	-	6
ネパール	20	1,054
タイ	-	9
ラオス	-	1
フィリピン	-	1
合計	20	2,555

##### ●ネパール

###### AFS-Nepal 農村トイレ建設支援

(バイオガスプラント設置付帯事業) **20基**

【バグマティ県シンドウパルチョーク郡インドラワティG.P.10地区6地区】

バイオガスプラント設置時にトイレの設置が条件付けされている。そのためにバイオガスプラント設置時にトイレ設置を始める農家が多くなっている。今年度はバイオガスプラント20基の設置に対し20世帯にトイレの設置が行われた。

#### (2) 医療支援

##### ●インド

###### RUDYA ムスカ村住民のための保健プロジェクト

【ガッチロリ県ダンノーラ地区ムスカ村】

2017年11月に開設したムスカ村の病院(診療所)に対して、看護師1名が常駐し、医師を週1回派遣することにより、住民が診療を受けることができるように支援した。資金調達のためにクラウドファンディングを実施した。資金調達により医療機器を支援し、医療体制基盤を整えると同時に住民へ衛生啓発活動を実施。運営資金確保が不安定であるため、十分な運営を行っていくことが今後の課題である。

##### ●ネパール

###### AFS-Nepal 地域医療向上支援事業

【バグマティ県シンドウパルチョーク郡インドラワティG.P.10地区】

(旧ボテシパ村)、カトマンズ郡ブッタニルカンタ N.P.(旧チュニケル村)、【ナワルプル郡カワソティーN.P.ピトゥリ村】

ネパールの農村部の学校では性教育を実施できている学校がほぼない状態である。女子学生が自分の健康を守ると同時に、思春期の大切な時期の学校生活を安心して送れるように、日本の有志により布ナプキンを作成し、そして自分たちの体の事を正しく理解するために性教育を実施予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響を受け中止。ナプキン制作訓練者へのオリエンテーションとミシンの使い方指導のみ実施した。

### 3. 提携 NGO 運営助成

本会の国際事業の柱の一つとして、国際ネットワークAFSの各国部会(NGO)の活動の強化は必須である。しかし、発展途上国では NGO の自己資金調達が困難であり助成を必要としている。自立運営を目指して、以下の各団体の運営に協力した。運営費及びプログラム経費を一部補助。また、職員給与・事務所諸経費も本会で負担。

#### RUDYA(インド)

運営費及びプログラム経費を一部補助。また、職員給与・事務所諸経費も本会で負担。

#### HDSI(インド)

インドにおけるグリーンスカウト運動を全国的に進めるため、運営費及びプログラム経費を一部補助。

#### KAFS(カンボジア)

運営費及びプログラム経費を一部補助。また、職員給与・事務所諸経費も本会で負担。

#### SARVODAYA(スリランカ)

サルボダヤの元スタッフのクナシリ氏の活動費を支援。サルボダヤ・スワセタ・セフにおけるファシリテーターの育成を行った。



フィリピン コロナ禍の障がい者や高齢者への食品配布



フィリピン 生計につながる農業支援



インド ムスカ村病院で診療を受ける村人



ネパール 生理用ナプキンの制作初期講習

## I-D. 環境事業

### 1. 植林・水源涵養林養育

持続可能な地域づくり、そして、災害や環境破壊から回復力の強化には環境保全が必要不可欠である。地球全体で脱炭素社会を目指す中、プラスチックの生産、使用量に着目されているが、森林減少に伴う温暖効果ガス排出量は世界全体の排出量の2割を占めるのも事実である。植林は大気浄化という大きな役割と共に、活動の根幹にある、安全な水の供給のための水資源を確保にも必要不可欠である。同時に、地域づくりにおいても森林は不可欠であり、森林減少が農作物の収穫量の減少へ連鎖し、それは、更なる環境汚染や貧困への要因にもつながる。これらを防ぐためには、地域のリソースを活かしながら、自然環境が自らの地域社会にもたらす影響を教育や啓発を通して学び、自然を守る心を育て、環境保全を実践していく活動を以下行った。

#### (1) 植林

(2022年3月現在)

国名	2021年度植林	累積
インド	200	712,405
インドネシア	6,000	213,460
カンボジア	-	18,000
スリランカ	660	1,335
タイ	-	20,500
中国	-	1,105,525
ネパール	1,050	304,907
パキスタン	-	4,560
フィリピン	-	166,515
バングラデシュ	3,000	31,528
	10,910	2,578,735

#### ●インドネシア

##### AFS-Aceh 植林

###### 【アチェ州アルーナガ村】

アチェ州は、2004年12月に発生したインド洋スマトラ沖大地震・大津波の最大被災地。多くの国際機関の援助により村々は復興したが、災害が風化し、地球温暖化の影響が押し寄せる中、人々はますます環境を汚染するようになった。災害当時に防潮林であるマングローブの植林を行った AFS-Aceh のスタッフと地元の大学生との協力により2017年に再び環境保全と地元の小学生の環境教育を目的に、マングローブの植林を実施し、子どもたちに環境保全への気づきを与えることができた。2018年度からの3か年計画の3年目として2020年度にマングローブの植林と地元の小中学生に対する環境教育を実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大のため2021年度に延期となり、最終的には現地団体のみでの実施を行った。具体的には2021年9月合計6000本の植林を2カ所で延べ3日間で実施した。また環境教育用のポスターや書籍及び果樹100本を地元の小中学校・高校6校に寄贈

した。さらに新たに環境保全活動の一環として8月と9月の河川と海の清掃活動を行った。

(2020年度公益信託地球環境基金日本基金助成事業)

#### ●ネパール

##### AFS-Nepal コミュニティ フォレスト 1,050本

###### 【バグマティ県シンドウパルチョーク郡インドラワティ G.P.10 地区(旧ボテシバ村)】

今後地震などの災害が起きた場合、避難できる緑多い地域の公園づくりを目指し、ブラシノキ属、アジサイ属、テンジクアオイ属、ナンテン属、クスノキ属、ムラサキフトモモ、ホウオオボクの植樹を750本行った。花木を中心に植樹、現地の緑化を長期的に推進していくことを目指し苗木2,700床の育成を実施。

加えて新たに地域の緑化と収入をバランスよく行えることを目指しコーヒー栽培を実施。コーヒーの育成の為に必要な日陰樹としてマメ科の高木を100本、コーヒーの木を200本と同時にコーヒー苗の育苗を10,000株実施し、今後地域住民へのコーヒー栽培推進を行う。

(令和元年度及び平成2年度緑の募金公募事業)

#### ●バングラデシュ

##### BDP 学校を中心とした植林活動 3,000本

###### 【ボリシャル県、】

BDP が運営するノンフォーマル教育の小学校の子どもたちが、環境を意識し、地域の環境を守る意識づくりを行うため、各学校にて植林活動と環境教育の実施を行う計画。4県4校で生徒たち4,586人へジャックフルーツの苗木の配布し、地域への植樹活動を実施した。また教師たちを中心として環境教育を実施していくための実践研修などをおこなった。今後の環境活動へ活かしていくこと目指している。

(2021年度連合愛のキャンパ 中央助成事業)

#### ●フィリピン

##### AFS-Pandan バンダン水源の森植林

###### 【アンティック州パナイ島バンダン町】

マロンパティの水源地を守る森を保全するために、水道局が中心となって苗木作りや定期的な草刈り等、森のメンテナンスをおこなった。台風で家が倒壊した被災者のための木材が多く必要となったため、グリーンスカウトメンバーが中心になり、苗木づくりの輪を拡げ、植林の準備をおこなった。

#### ●スリランカ

##### SARVODAYA コミュニティフォレスト 660本

###### 【サバラガムワ州ラトナプラ県エンピリピティヤ地区】

井戸を寄贈した村々の水源と地域の環境を保全し、収入につながる果樹を含む植林660本をおこなった。コロナ感染防止のため、今年度は5ヶ村で選ばれた184名を対象にプログラムを開催。生態系や水の保全、植林する木の特徴や育て方等のセミナーを同時におこなった。植樹育成は村の青少年を中心におこなっていく。

## 2. 環境改善・国際グリーンスカウト

国際グリーンスカウト(GS)運動とは「Think Globally, Act Locally(地球規模で考え、地域で行動を)」をモットーとした「地球市民による地球環境保全」に取り組む市民活動である。1986年に本会が提唱。アジアにおける「理解と協力と連帯」の輪を広げる実践活動の一環として、AFSの海外ネットワークを通じて16カ国にて展開した。アジア各国に草の根市民による環境保全活動を広げることを目的としている。今年度は4カ国で実施した。

### ●インド

**HDSI グリーンスカウト運動支援 1校**

**【マハラシュトラ州アムラワティ県】**

HDSIは、8月17日にグリーンスカウト運動をジョンズ・スクールにて実施した。周辺地域の15NGOの代表者、53人の学生が参加した。

植林活動では、環境保護に対して自分たちが主体となることができることについての講義、啓発活動、200本以上の植樹が行われた。

コロナの影響で、住民参加はなかった。

### ●ネパール

**AFS-Nepal ゴミ分別及び処理セミナー**

**【シンドゥパルチョーク郡インドラワティ G.P.10 地区 (旧ボテシパ村)】**

地域環境保全のために環境ジュニアリーダー育成を実施してきた。地域全体への活動展開及び住民全員が環境保全の意識をもち持続的な地域づくりを行うために、地区内のゴミの処理についての活動を開始、分別後焼却をおこなえるゴミ箱を10カ所に設置し、地区のリーダー20名にゴミに関する基礎セミナーを2回実施した。

※りそなアジア・オセアニア財団環境プロジェクト助成事業

**AFS-Nepal グリーンスカウト ローカルGS組織づくり**

**【カトマンズ郡ブタニルカント N.P.チュニケル村、ナワルパラシ郡カワソティ N.P.ピトゥリ村】**

村の青少年を中心としたローカルGSづくりを奨励。環境改善に向けての方法を考え、行動できるように促している。ピトゥリ村GSは、地域の子もたちが小グループを作り、3R推進を中心に環境美化推進運動を実施。住居周辺道の清掃活動をスリーサンティ小学校、ラズマンドイル小学校、ピトゥリ小学校の生徒と地域住民が協力して継続実施している。チュニケル村GSは、ナウリンセカンダリースクールの里子たちがその役割を担い地域清掃と共に植林による積極的な環境保全活動を実施している。新型コロナウイルス感染症の影響により、活動が制限されたが活動を再開することができた。

### ●フィリピン

**AFS-Pandan, AFS-Antique グリーンスカウト運動**

**【アンティック州パナイ島 バندان町、シバロン市他】**

学校を拠点として、環境保全活動について学び、実践する取り組みを実施した。構内に有機農園や池をつくり動植物を育成や、地域清掃等を通じて、地球と地域の環境保全に意識を向け、行動できる人材の育成をおこなった。

### ●スリランカ

**SARVODAYA グリーンスカウト運動**

**【スリランカ全土】**

学校を拠点として、環境保全活動について学び、実践する取り組みを

進めた。動植物を育成や、地域清掃等を通じて、地球と地域の環境保全に意識を向け、行動していく人材の育成をおこなった。

## 3. 再生可能エネルギー資源活用・普及

### ●ネパール

**AFS-Nepal バイオガスプラント設置及び普及事業 20基**

**【シンドゥパルチョーク郡インドラワティ(旧ボテシパ村)】**

20基のバイオガスプラントを設置し、今回の支援により年間の薪の使用料を約51,200kg、また二酸化炭素排出量を100トン(1基当たり年間5トン減少)抑えることができた。また、1基の設置につき、薪の年間使用量と1世帯当たり4,000kgの使用量の内70~90%削減することができ、国土の30%台にまでに減少(以前は70%)した森林面積の回復にも繋がった。資源がないネパールでは、身近にある牛糞を利用したバイオガスが、確実な燃料確保につながると同時に、森の保全に繋がるために村人に着目されている。そして現在特に注目されているのが、ガスが出た後に排出される糞のカス、スラリーの農業への肥料利用である。対象エリアは、地震後の復興を実施するにあたり、環境に考慮した循環型の地域づくりをめざしている。バイオガスプラントの設置は、環境保全のみならず農村地区の人々の生活改善(薪採集を担っていた子ども、女性の重労働の軽減、薪の煙で目や肺を患っていた女性の健康の改善)にも大きく寄与している。同時にトイレの併設も進み衛生向上にも繋がっている。

**【現在まで累計1,218基設置】**

※本事業の内15基の設置は、りそなアジア・オセアニア財団環境プロジェクト助成により実施。



バングラデシュ植林活動のため苗木を受け取り子どもたち



インドネシア アチェでのマングローブ植林活動

## I-E . ワークキャンプ・視察

### 1. ワークキャンプ

国際ワークキャンプを通じて、本会の海外プロジェクトを支援すると共に、現地での共同(協働)作業により国際理解・文化交流の機会とし、各活動に対する理解と協力と連帯の輪を内外に広げることを目指し、アジア各地で実施している。

2021年度は昨年度に引き続き、コロナの影響を受け、実施しなかった。

### 2. 海外プロジェクト視察

#### 1. ネパール 支援事業視察(N 連関係)

期 間:2021年12月1日~2022年3月29日

場 所:カトマンズ、シンドパルチョーク郡インドラワティ G.P.10 地区

派遣者:坂口 優

内 容:令和2年度日本 NGO 連携無償資金協力支援事業のための現地駐在による事業実施

#### 2. ネパール 支援事業視察(N 連関係)

期 間:2021年12月9日~2022年1月11日

場 所:カトマンズ、シンドパルチョーク郡インドラワティ G.P.10 地区

派遣者:熱田典子

内 容:令和2年度日本 NGO 連携無償資金協力支援事業の実施調整、視察、事業関連トレーニング実施他

#### 3. ネパール 支援事業視察(N 連関係)

期 間:2022年3月1日~20日

場 所:カトマンズ、シンドパルチョーク郡インドラワティ G.P.10 地区

派遣者:天野 紀(日本人専門家)、熱田典子

内 容:令和2年度日本 NGO 連携無償資金協力支援事業の実施最終調整、確認調査、事業関連トレーニング実施、揚水システム譲渡式他



ネパール 専門家及び駐在員による揚水システムの点検作業



ネパール 地域の住民のための緑の公園



カンボジア 井戸が地域に完成し生活改善につながった



ネパール 暮らしと環境を保全する新設されたバイオガス・プラント

## II. 国際交流事業

### II-A. 人材交流・育成事業

#### 1. 奨学金支援

各自の専門職を通して、将来アジア社会の発展や人々の福祉の向上に大きく寄与すると期待される若手の人材育成資金(奨学金等)を支援。

##### ●フィリピン

###### ASI マニラ

2021年度は、フィリピンの大学院大学、アジア社会科学院(Asian Social Institute ASI)の地域開発専門コースがコロナ禍のためオンラインで開催されたが、対象者がいなかったため奨学金支援はおこなわなかった。

##### ●インド

###### HDSI アムラワティ 1名

HDSIの後継者として現在、HDSIにてボランティアとして活動を行っている Gaius Thorat 氏が専門的な知識を有し、HDSIに持続的に活動できるために、奨学金としてナグプール大学社会開発学科の3年目の学費を支援した。

#### 2. 海外ボランティア研修制度

アジア諸国との国際協力・理解と、市民レベルでの草の根ネットワークを広げていくことを目指し、海外経験を通して幅広い人材育成を行う制度として2000年より実施。2022年度は、新型コロナウイルス感染症の状況を鑑み、募集を行わなかった。

#### 3. 人材育成事業

##### (1) アジア・ユースサミット (AYS)

事業名: 第7回アジア・ユースサミット

事業テーマ: 地域を良くするプロジェクトを創ろう!!

～コロナ禍で私たちができること～

事業期間: 2021年8月28日～29日及び9月18日

実施方法: オンライン

参加者数: 96名(内高校生31名)

参加国: インド、インドネシア、カンボジア、スリランカ、中国、日本、ネパール、

パキスタン、バングラデシュ、フィリピン

事業助成: 令和3年度外務省 NGO 事業補助金

後援: 文部科学省/外務省/大阪府/公益財団法人 大阪国際交流財団/公益財団法人 大阪国際交流センター

特定非営利活動法人関西 NGO 協議会/関西 SDGs プラットフォーム/特定非営利活動法人関西国際交流団体協議会/ワン・ワールド・フェスティバル for Youth

協賛: イオングループ労働組合連合会/株式会社グローアップハピネス/株式会社国元商会/栄光会 寝屋川十字の園/弁護士法人あすなろ/リタワークス株式会社/小原純子

##### 【タイムテーブル】

8月14日～27日: プロジェクト発表+視聴(動画にて)

8月28日: 第7回アジア・ユースサミット1日目(基調講演・ディスカッション)

8月29日: 第7回アジア・ユースサミット2日目(ディスカッション・審査発表)

9月18日: 第7回アジア・ユースサミット宣言文採択

##### 【実施内容】

プロジェクト発表(事前に動画にて共有+視聴)

海外7ヶ国9チーム、日本5校の合計14のプロジェクトが発表された。テーマは、「地域を良くするプロジェクトを創ろう～コロナ禍で私たちができること～」とし、地域に潜む課題を取り上げ、どのように解決することができるかプロジェクト立案、発表した。

##### プロジェクト一覧

学校名	プロジェクト名	プロジェクト内容
関西学院高等部 ※オーディエンス賞	高齢者と若者の繋がり	地域の高齢者と若者の希薄な繋がりを、交流プログラムを通して活性化させる。
神戸龍谷高等学校	COVID-19 禍で私たちにできる外国人を支援	在日外国人に対するコロナ禍での支援をサポートする。
神戸学院大学附属 高等学校	コロナスタディサポートプロジェクト～学生に学ぶ機会を～	コロナ禍で学校が休校になり、学習時間が減少した生徒の学習不安を解消する。
清風南海高等学校	宍粟市の地域活性化	地域住民と県内外の人々との交流の場を作り、地域を活性化させる。
京都暁星高等学校 ※優秀賞	故郷の自然を守るために私たちにできること(ゴミ拾い)	地域で不法投棄されたゴミを拾い、地域で自然環境を守る。
インド Fergusson	Eラーニングセンター: リモートで学	農村部に暮らす学生たちにEラーニン

College, Pune ※優秀賞	ぶ学生のためのデジタルアクセス	グを提供し、コロナ禍でも学習できる機会をつくる。
インド Sacred Heart School	チャイルド・ディベロップメント・プロジェクト	コロナ禍で貧困に直面している家庭の子どもに教育面と栄養面からサポートを行う。
インド Bal Bharti Public School Neelbad	COVID-19 パンデミックと闘うための啓蒙活動とコロナ影響家庭への食料支援	コロナ禍で苦しむ家庭に食料支援、衛生啓発活動を行う。
インドネシア Sekolah Murid Merdeka High School	コーヒーかすの再利用	コーヒーかすを有効利用し、家計の収入増加に繋げる。
スリランカ ※最優秀賞	若者たちの読書愛好クラブ	子ども達や若者たちに読書の習慣を根付かせるため、図書館を作り、本を読む機会を提供する。
ネパール St. Xavier ※最優秀賞	Zoom Up(ズーム活用大作戦)デジタル障壁を打ち破れ	高齢者が躊躇いなくデジタル機器を使用できるようにする。
バングラデシュ New Government Degree College, Rajshahi	新型コロナ禍でロックダウン下にある学生の精神的健康の回復～バングラデシュの小さな町でのケーススタディ～	コロナ禍で閉塞感から生ずる問題に直面している青少年層の心の健康、身体を健康をコミュニティの力で回復する。
パキスタン Beaconhouse College Programme Margalla Campus	ケア	コロナ禍で苦しむ家庭に食料支援、衛生啓発活動を行う。
フィリピン Matnog National High School	学校のハウス栽培農業学習	政府からの支援が届かないため、地域の人たちが自立して農業ができるよう、栽培用ハウスと養苗場を立ち上げる。

#### 【プログラム】

8月28日(1日目)

開会式 開会の挨拶/プロジェクトへの講評  
グループディスカッション

「みんなが尊重され、どのような立場の人々もイキイキと生活できる多様性と環境バランスに富んだ地域社会」をアジア・ユースサミット(以下 AYS)コミュニティと仮定し、高校生が立案したプロジェクトを軸に議論。AYS コミュニティを良くするために、6つの課「地域住民課」、「広報課」、「教育課」、「市民生活課」、「健康福祉課」、「情報政策課」に分かれ、それぞれの課で議論した。

基調講演 持続可能な開発目標(SDGs)について、「変革性」と「連携性」の観点から課題解決を行う 岡島

8月29日(2日目)

アイスブレイク

グループディスカッション

課題に対する解決策の考案が行われた。まずは、1日目に出了課題の振り返りを行うと同時に、基調講演などを通して新たな課題が見えてきたか否かを議論した。その後、それぞれの課題に対し、どのような解決方法があるのかを模索。

グループ発表

課としてどのような課題が挙げられたか、またその課題に対してどのように課として解決方法が提案できるかを発表した。

グループ発表に対する講評

プロジェクト審査発表

全体講評

9月18日(第7回アジア・ユースサミット 宣言文採択)

コロナ禍において、また平時においても「みんなが尊重され、どのような立場の人々もイキイキと生活できる多様性と環境バランスに富んだ地域づくり」を目指して、どのような行動を第7回アジア・ユースサミットとして取るのかを発表し、採択。また、各課で出た政策内容をAYS総合政策として発表。

#### 第7回アジア・ユースサミット 宣言文

私たちは、コロナ禍において、また平時においても「みんなが尊重され、どのような立場の人々もイキイキと生活できる多様性と環境バランスに富んだ地域づくり」を目指して、以下の行動をとります。

#### 1. 私たちは地域住民と共に暮らしやすい、平和な地域社会をつくりたい。

- 1-1 高齢者、学生、子ども、働く世代、障がい者、在留外国人など誰もが自由で安心して暮らせる社会環境をつくりたい。
- 1-2 地域住民を巻き込み、互いの繋がりを強化します。
- 1-3 全ての人を取り残されることなく、交流できる場を提供します。
- 1-4 平和学習話の機会をオンライン活用により増やし平和な地域づくりへ活かします。
- 1-5 各世代が持つ知恵の共有、伝承、継承を行います。

#### 2. 私たちは、誰もがいつでも公平に教育を受けられる環境をつくりたい。

- 2-1 非常事態や災害時における教育課題を収集し、Eラーニングセンターづくりなどを通じた対応を行います。
- 2-2 世代間で格差がないよう、各々に応じた教育プログラムを提供します。
- 2-3 地域住民が学びの場を確保し、互いの学びを共有し合える場と機会をつくりたい。
- 2-4 持続可能な地域をつくるため、次世代育成を行います。

#### 3. 私たちはどのような状況下であってもすべての地域住民に配慮し、誰もが情報発信やデジタル化に対応できるよう情報提供活動を行います。

- 3-1 全ての人々が近場で確実な情報を得ることができる掲示を行います。
- 3-2 SNS やオンラインを駆使しながら情報発信を行います。

3-3 地域のコミュニティ放送やフリーマガジンを用いて情報を提供します。

3-4 地域の代表やコミュニティクラブ、政府機関等と連携して情報を提供します。

3-5 行政及び地域住民が互いに情報や知識・スキルを共有できる場を提供します。

#### 4. 私たちは、誰もが安心して暮らせる健康や福祉が守られた社会をつくりまします。

4-1 すべての人の心と体の健康が守られる活動を行います。

4-2 不法投棄の廃棄物回収や家庭ごみの削減を行い、誰もが住みやすい安全・安心な地域づくりを行います。

4-3 地域住民同士が共に取り組める運動教室を開き、生活習慣の悪化を防ぎます。

4-4 障がいを持つ人たちに配慮した活動を促進します。

#### 5. 私たちは、自然環境や社会環境に配慮した地域づくりを行います。

5-1 コーヒーかすや生ごみ等を肥料や芳香剤として再利用し、自然環境を守ります。

5-2 植林を行い、自然環境を保護します。

5-3 地域野菜の生産を促進し、学校やあらゆるコミュニティの活性化を目指します。

#### ◆プログラム終了後の活動

1. グローバルフェスタ オンラインプログラムに出演参加: ユースリーダーを中心に AYS の全体説明と第 7 回のプログラムに関して説明。海外高校生も 1 組参加。

2. ワンフェス for Youth のオンラインプログラムに出演参加: ユースリーダーを中心に、AYS の説明や魅力を説明、海外高校生も 2 組参加。

#### ◆参加者たちのプロジェクトの中間報告

京都暁星高等学校: 地域のゴミ拾い活動実施

インド(RUDYA): E ラーニング活動実施

## Ⅱ-B. ネットワーク推進事業

### 1. 国際会議

#### (1) アジア国際ネットワークセミナー

アジア国際ネットワークセミナーは、「貧困なき一なるアジア共同体を目指して～アジアに理解と協力と連帯の輪をひろげよう～」をテーマに毎年開催し、今年度も秋に第 30 回をスリランカで開催する予定でしたが、新型コロナウイルス感染の世界的流行のため 2 年連続でやむなく中止した。

その代わりとして、下記の通りオンライン(ZOOM)による会議を 1 回実施し、AFS ネットワークメンバーのお互いの安否の確認と現況を共有する共有することができた。

第 3 回オンライン会議(AFS Virtual Meeting on Covid-19)

日時: 2021 年 11 月 30 日(火) 17:00-19:00(日本時間)

参加国: インド、ネパール、バングラデシュ、スリランカ、パキスタン、カンボジア、インドネシア、フィリピン、シンガポール、日本、以上 10 ヶ国

参加者数: 38 名(内日本 10 名)

概要: 司会進行 AFS 国際事務局 ジーナ・ヤップ 事務局長

ご挨拶 ネットワークセミナー担当 西田 貞之 理事

小原 純子 副会長、法花 敏郎 副会長、村上 公彦 事務局長

新型コロナウイルスで逝去されたメンバーに黙祷

各国のチャプターより現況・課題報告

AYS 報告、AFS-India 特別レポート、ブルーオーシャン作戦

(3 ヶ国同時ゴミ拾い活動) 報告

#### (2) 国際ネットワーク機能強化事業

設立基本目標の一つである国際連帯を図るネットワーク事業。当事業推進のために AFS/ICO (国際調整事務局) を設けている。AFS/ICO は JAFS 事務局長を中心に、各国の部会(提携団体)から選出した 8 名の委員で構成して活動している。

アジア・フレンドシップ財団(AFFC) 設立発起人会を開催する予定が、新型コロナウイルスの世界的流行により無期延期された。

#### (3) アジア・フレンドシップ夢基金

当基金は AFS/ICO (国際ネットワーク事務局) の事業の一環として本会のアジアにおけるネットワークの求心力を高めるために 2008 年に設立された国際基金。現在アジア 8 ヶ国の各部会が任意に参加している。

本会において国際基金は 2010 年から「夢基金」という名目で世話人会が発足。募金のための世話人会(代表 坂口久 代理理事)を設けて国際基金募金に協力している。

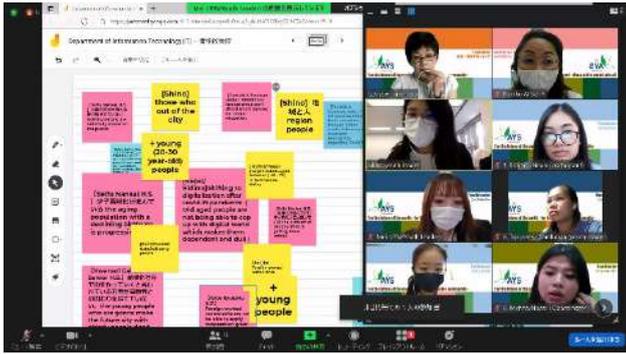
2021 年 4 月 20 日、10 月 12 日に夢基金世話人を開催した。(2021 年度募金高は 367,675 円)

### 2. 国際体験交流 (スタディツアー等)

アジアにおける本会海外プロジェクト視察や、アジアの現状に対して足を運び実感するスタディツアー等を通じて、国際理解文化交流の場を広く人々に提供し、本会の活動事業への理解と連帯の輪を内外に広げることが目的とする。2021 年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により計画できなかった。



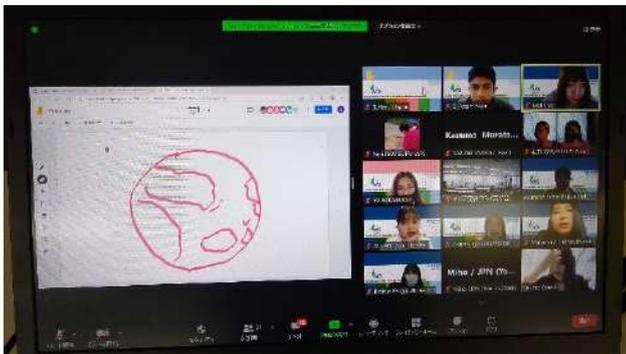
第 7 回アジア・ユースサミット開催事務局に集まったユースリーダー



第7回アジア・ユースサミット(AYS) 初のオンライン開催  
オンライン上でのグループディスカッションの様子



立案したプロジェクトを実行するインドの参加者



AYS オンライン上での交流プログラム



京都暁星高校の活動が新聞で紹介される



AYS ユースリーダーとファンリターター



AYS 後に実施されたグローバルフェスタでのプログラム



タイ コロナ情報の手話発信に参加した学生たち(セサティアンろう学校)

# 海外提携団体 AFSネットワーク

(18ヶ国 70団体 日本除く)

提携団体 (略称)	管理責任者	所在地	活動
<b>1 インド</b>			
1 BSVIA	N. クンバール	カルナータカ州ビジャヤプーラ	水、子ども、貧困対策、環境、災害復興
2 EDCI	S.サンディシュ	マハラシュトラ州ナグプール	子ども、貧困対策、環境
3 ISSA	J.ザカライヤ	マハラシュトラ州プーネ	水、子ども、貧困対策
4 AFS Kolkata	A. バナジー	西ベンガル州コルカタ	水
5 SSH	B.セルヴァラージ	タミルナードゥ州ディンディガル	水、子ども、災害復興
6 RUDYA	K. デオガデ	マハラシュトラ州ガッチロリ	水、子ども、貧困対策、環境、災害復興
7 HDSI	P. ソラット	マハラシュトラ州アムラワティ	水、環境
8 JVK	アショク・トッポ	オリッサ州ブバネシュワール	災害復興
9 AMS	A.P.ポール	タミルナードゥ州マバルワペタイ	水、貧困対策
10 Don Bosco Ashalayam	Fr. ジョージ	デリー	子ども
11 Runa	ピーター・ベロ	ナガランド州コヒマ	水
12 AFS-Nagpur	P. ビシャル	マハラシュトラ州ナグプール	子ども、貧困対策
13 AFS-Akola	D. ダンラジ	マハラシュトラ州アコラ	環境
14 AFS-Rural Gacchiroli	D. パルサガデ	マハラシュトラ州ガッチロリ	貧困対策
15 AFS-Gacchiroli	P. ソンタック	マハラシュトラ州ガッチロリ	貧困対策
16 AFS-Saoli	B. アレワール	マハラシュトラ州チャンドラプール	貧困対策
17 AFS-Aramori	M. ヘポット	マハラシュトラ州ガッチロリ	貧困対策
18 AFS-Chhattisgarh	S.H.パッタン	マハラシュトラ州チャティスガー	貧困対策
19 AFS-Sanguli	クムディニ・ナシュテ	マハラシュトラ州ソラプール	子ども、貧困対策
20 AFS-Latur	ラジ・マホール	マハラシュトラ州ラトウル	子ども、貧困対策
21 AFS-Bangalore	カムレ	カルナータカ州バンガロール	子ども、貧困対策
22 IJSDC	ウノ・イクバル	カルナータカ州バンガロール	貧困対策
23 AFS-Lonara	タラチャン・カブセ	マハラシュトラ州ロナラ	水、貧困対策
<b>2 インドネシア</b>			
24 HOSANNA	E.サントサ	バリ島ケロボカン	水、子ども、貧困対策、環境、災害復興
25 AFS-Aceh	サラ・ジュマリア	アチェ州	環境、災害復興
26 AFS-Jakarta	B. ラバン	ジャカルタ	水、貧困対策、環境
27 Dhyana Pura 大学	マデ・ニヤンドラ	バリ島クタ	国際交流
<b>3 韓国</b>			
28 公州大学校産業科学大学	ユン・ジュン・サン	忠清南道礼山	国際交流
<b>4 カンボジア</b>			
29 KAFS	ロン・チョーン	プノンペン	水、子ども、貧困対策
<b>5 シンガポール</b>			
30 AFS- Singapore	エドワード・オング	シンガポール	国際交流
<b>6 スリランカ</b>			
31 SARVODAYA	A.T.アリヤラトネ	モラトゥワ	水、環境、貧困対策

**7 タイ**

32	VITAL	K.スリサン	コンケン県マハサラカム	貧困対策
33	TAFS	ニラン・チャンタ	バンコック	子ども、国際交流
34	FON	サック・ノスリ	ナン県	子ども、貧困対策
35	ELF	チャイチェン	チェンマイ	国際交流
36	AFS-Chang Mai	チャイワット	チェンマイ	国際交流
37	AFS-Lampang	スラボン・パクディ	ランパン	環境
38	AFS-Udontani	サン・セン	ウドンタニ	国際交流

**8 中国**

39	CHAFS	羅 紅光	北京	子ども、環境
40	AFS Hong Kong	調整中	香港	国際交流
41	AFS Uighur	ユスフ・エム・デオラ	ウルムチ	貧困対策、国際交流

**9 ネパール**

42	AFS-Nepal(GreenScout Nepal)	ラジャン・M・マツラ	カトマンズ	水、子ども、貧困対策、環境
43	HARD-EC	S.P.ジョッシ	カトマンズ	貧困対策、環境

**10 パキスタン**

44	PAFS	C.H.ナディーム	イスラマバード	水、子ども、災害復興
----	------	-----------	---------	------------

**11 バングラデシュ**

45	AFS-Bangladesh	S. チョウドリー	チャンドラゴーナ	水、貧困対策
46	AFS-Dhaka	M.フェローズ	ダッカ	水、子ども、貧困対策、環境
47	AFS-Chittagong	I.チョウドリー	チッタゴン	国際交流
48	BDP	アルバート・マラカル	ミルプール	水、子ども、貧困対策、災害復興
49	AFS-BIWM	ムンスール・ラーマン	ダッカ	水、子ども、災害復興

**12 フィリピン**

50	KALIPI	エロイサ・クナナン	ヌエバエシハ州サンレオナルド	水、貧困対策、環境、災害復興
51	AFS-Pandan	ネリ・サラビア・レクタラ	アンティーケ州パンダン	水、子ども、環境、貧困対策
52	AFS-Virac,Catanduanes	ランド・グロバット	カタンドゥアネス州ビラク	水、環境、災害復興
53	AFS-Manila	マラガ・アマンテ	マニラ市	国際交流
54	AFS-Zamboanga	エメリタ・バシリオ	南サンボアンガ州サンボアンガ	国際交流
55	Asian Social Institute	ミナ・ラミレズ	マニラ市	子ども、貧困対策、環境、災害復興
56	AFS-Davao Oriental	レイナルド・ギタカイ	東ダバオ州ダバオ・オリエンタル	国際交流
57	AFS-Ibajay	エミリー・アランゴテ	ア克蘭州イバハイ	子ども
58	AFS-South Antique	ビクター・デ・グラシア	アンティーケ州サンホセ	子ども
59	AFS-UMD	ジーナ・ヤップ	ソルソゴン州マトノグ	子ども、環境、貧困対策
60	AFS-Antique	ジェネロサ・コンデス	アンティーケ州	貧困対策、環境
61	AFS-Guimaras	ヴィック・デ・グラシア	ギマラス州	環境
62	AFS-Kabankalan	エライザ・ベルナオーラ	西ネグロス州	環境
63	AFS-Tacloban	ロウエナ・ロセ	レイテ島タクロバン	貧困対策、災害復興

**13 ベトナム**

64	VAFS	ルー・バン・ロック	ホーチミン	貧困対策、子ども
65	Cantho 大学	ドン・バン・ニー	カントー	貧困対策

**14 マレーシア**

66	AFS-Malaysia	リム・チャイ・ホン	ペナン	環境、災害復興
----	--------------	-----------	-----	---------

<b>15</b>	<b>ミャンマー</b>			
67	MAFS	ヤム・コーパウ	ヤンゴン	水
<b>16</b>	<b>モンゴル</b>			
68	MoAFS	エンフトヤ	ウランバートル	貧困対策
<b>17</b>	<b>ラオス</b>			
69	LPRYU	ワンペン・クンポーライ	ビエンチャン	水、子ども
<b>18</b>	<b>アフガニスタン</b>			
70	AAFS	ラハマト	ジャララバード	貧困対策



第7回アジア・ユースサミット オンライン上に集合した各国参加者

## Ⅲ. 災害・紛争の罹災者に対する生活支援事業

### Ⅲ-A. 災害等罹災者支援事業

#### 1. 災害等罹災者支援事業

##### (1) ネパール中部地震 災害復興支援

###### AFS-Nepal ネパール中部地震 被災地復興支援

【シンドウパルチョーク郡インドラワティ G.P.10 地区(旧ボテンバ村)

2015年4月25日に発生した地震の被災地、被災者に対して、復興及びその後の持続可能な地域づくりを目指した支援活動を2021年度は以下の通り実施した。

##### 1. 灌漑農業用水と安全な水確保のための完全な給水システムの設置

###### 1-1. 集落用貯水タンクの設置

フェロセメントタンク(容量1万2千リットル/1基)5基の設置

###### 1-2. 農業用貯水槽の設置

RCCタンク(2万リットル/1基)6基の設置

###### 1-3. パイプライン接続

H30年度事業にて設置した揚水メインシステム(本線)と1-1、1-2を接続するHDPEパイプ及びGIパイプの設置

###### 1-4. 減圧施設の設置

Interruption Chamber(IC)8基の設置

###### 1-5. 揚水システムメインタンクパイプライン修復工事

###### 1-6. アンカーブロック20ヶ所の設置

###### 1-7. 石積要塞130mの設置

###### 1-8. 流量計3基の設置

揚水メインシステムのメインタンク3基に流量計を設置

###### 1-9. 安全対策(階段:7ヶ所、注意事項4ヶ所)の実施

タンク内の水位を目視確認するために、フェロセメントタンク4基の外部に階段を設置。またフェロセメント以外の3つのタンクには、清掃等の維持管理を考慮し、タンク内部に階段を設置。

注意喚起のための掲示板をフェロセメントタンク4基の外部に設置。

###### 1-10. 電流測定器の常備化

揚水システムの電流測定を定期的に変更できるように電流測定器1器を常備

##### 2. 水管理組織体制の強化

本事業終了時に揚水システムを譲渡した後、住民主体で本設備を長期維持しようするために、システムを維持管理していく水管理組合の管理体制を確立した。

###### 2-1. 水インフラ管理研修

・第一回目研修【9月12、13日、14日 参加者各17、18、15名】

H30年度事業において設立した水管理組合から選出されたメンバーと、集落毎の水管理グループメンバーを対象に、水衛生についての講義及び、システム譲渡後のシステム運営維持に必要な技術、管理ルールについての研修を実施した。本研修を通して、システム譲渡後に本システムを管理していくメンバーたちの各役割と責任を明確化し、長期運営していく上で生じうる問題とその対処法、水

使用料金とその経費使用におけるガイドライン作りについて学ぶ研修となった。

・第二回目研修【12月11日 参加者各14名】

内容:ポンプとパネルボードへの理解促進のための研修  
今後使用するポンプやパネルボードの機能的な仕組みについて理解を深める目的で研修を実施。使用するポンプとパネルボードの機能を理解する、ポンプとパネルボードを長期的に使用できるようにする、ポンプとパネルボードを機能させるための委員会の役割について理解する、ポンプの些細な不具合に対応できるようにする、ポンプやパネルボード利用時の不注意による人命にかかわる事故を防ぐ方法について学ぶ機会となった。

・第三回目研修【12月27日、28日、29日 参加者各18名】

内容:配水の持続可能な運用について研修  
プロジェクトの持続可能な運営計画の作成、水質汚染時のタンク水の浄化方法、財政的に持続可能なプロジェクト運営に於ける方法、メンテナンスの重要性を学ぶ研修となった。

・外部視察研修1回目【11月28日、29日 参加者各4名】

内容:ポンプとパネルボードについて理解を深めるための外部視察研修

ポンプとパネルボードのパーツ詳細説明及びより高度な知識と技術について学び、問題発生時に対処できる電気系統責任者4名を育成する機会となった。

・外部視察研修2回目【3月14日 参加者22名】

内容:他地域での揚水システム運営維持管理方法に関する外部視察

Bakreli Kavreにて、揚水システムの運営、維持管理についてどのように行われているのかを視察。集金方法や破損時の対応、運営の主要メンバーの役割等について、事例を見聞し、自分たちの地域でどのように活かすことができるかを学ぶ機会となった。

###### 2-2. 日本の技術者による水インフラ管理技術指導及び設備検査

・第一回目研修(オンライン)【12月14日、15日、16日 参加者9名】

内容:揚水システム機能全体の確認及び点検ポイントとその確認方法

揚水システムで使用するメインタンク、パネルボード、ポンプ、アース線等に関して、日本人専門家にオンラインにて確認してもらった。不備について日本での対処方法やアドバイス、日本での点検方法について学び、システムの持続可能な運用、維持管理に繋がる研修となった。

・第二回目研修【3月7日～11日 参加者各9名】

内容:揚水システム機能全体の設備確認及び長期運用に向けた方策に関する研修

第一回目の日本人専門家によるオンライン研修で再確認が必要になった部分や不備(不足)部分に関して、日本人専門家による確認を現地にて実施した。現地では対応が難しい点に関しては、日本での対処方法などを実際に説明してもらいながら、随時その場で

改善を行った。また、長期的な運用に向け、事故や不備が発生しないよう、事前に考慮すべきことや対応策について学ぶ研修となった。

### 3. 農業生産向上による収入源獲得の基盤づくり

#### 3-1. 農業組合の組織強化と管理技術研修

##### ・第一回目研修【12月27日、28日、29日 参加者各26名】

内容:セールス・マーケティング研修1回目

農業グループのリーダーを対象に、参加した農家が今後自分たちで栽培した野菜等を販売できるよう、セールス・マーケティング研修を実施した。研修は3日間にわたり、農業ビジネスサイクル、年間の農業活動記録、ビジネスプラン作成、農業に必要な物資等の購入計画、利益と損益分析、ビジネスと市場の関係についての講義が行われた。参加した農業メンバーに販売、マーケティング手法の基礎知識を学ぶ研修となった。

##### ・第二回目研修【1月3日、4日、5日 参加者各18名】

内容:セールス・マーケティング研修2回目

1回目に行われたセールス・マーケティング研修の続きとして、ビジネスと市場の関係についての基本的な復習、市場に影響を与えるさまざまな側面と市場への製品のサプライチェーン、市場における競合他社の分析及び市場調査、説得のテクニック、ビジネスの種類、市場の3C、PEMAビジネスモデル、ESBIビジネスモデルについて研修を行った。参加した農業メンバーは、マーケティングと戦略に関する知識を習得することができた。

##### ・外部視察研修【3月24日 参加者32名】

内容:有機農業とパーマカルチャーへの理解を深めるためのモデル農場視察

農業グループメンバーを対象に、パーマカルチャーの概念、有機農業の技術、野菜の品種とスパイスの栽培、有機農業のメリット、生産された農産物の有機認証プロセスに関する基本情報に関する研修を行った。参加者は、パーマカルチャーの概念と有機農業の技術を理解し、自分の農場で実践できるように知識を深める機会となった。

#### 3-2. 野菜・果実栽培技術研修

##### ・第一回目研修【9月15日、16日 参加者各18名】

内容: H30年度に設立した農業組合メンバーと、9区から選出された農業組合設立準備メンバーを対象に、ボルドー液の作成及び使用法、果物野菜の剪定及び間引き方法についての講義、実践研修を行った。また、今後の栽培及び販売計画立てと資金管理の実践に向けて作物毎の生産高記録表と収支表を配付し、集落毎の結果を毎月農業専門家へ提出する課題を課した。本研修は、新型コロナウイルス感染防止対策のため研修受講者を2グループに分けて2日間にわたり実施した。害虫により引き起こされる病気の治療や殺虫剤として使用できる有機農薬の作成使用技術を身につけ、本格的な農業において重要な間引き、剪定技術を身につける研修となった。

##### ・第二回目研修(外部視察研修)【12月21日 参加者18名】

内容:有機コーヒー農園と果樹園視察

農業グループメンバーが有機農業とその技術について学ぶために、Lama氏が経営する有機コーヒー農園と果樹園を視察した。コーヒー農園と有機農業、インドラワティ村で栽培可能なコーヒーの品種とその栽培方法、ネパール国内及び国際市場におけるコーヒー豆のメリットと需要、コーヒー豆の品質管理及び精製と加工、生産されている果物やコーヒー豆の市場とのつながり・背景について学ぶ機会となった。

#### 3-3. 家畜飼育技術支援研修

##### ・第一回目研修【2月15日、16日、17日、18日 参加者各16名】

内容:家畜の飼育に関する研修

農業グループメンバーを対象に、養鶏の概要とその利点、養鶏に関連するリスクとその管理、養鶏に関連する病気とその対処法、養鶏の種類、家畜の病気予防のためのワクチンの種類とその活用方法、家畜として利用される馬の概要、馬の農業利用方法と輸送手段、馬を家畜として利用するメリット、馬の飼育法についての研修が行われた。参加した農業メンバーは、家畜のための自家製飼料作りや馬についての基礎知識を学ぶと同時に、養鶏について更なる理解促進につながる機械となった。

##### ・第二回目研修【2月21日、3月1日 参加者10、15名】

内容:日本人専門家による馬を利用した農業に関するオンライン研修

農業グループメンバーを対象に、日本で実際に農業に馬を導入している専門家より、農業における馬の活用法、基礎知識を学ぶ研修を行った。オンラインで馬の活用方法を教示してもらい、自分たちの農場でどのように活かすことができるかについて学ぶ機会となった。

##### ・第三回目研修【2月22日～28日 参加者計20名】

内容:馬の調教についての研修

農業グループメンバーを対象に、馬の農業利用方法と実際に馬を調教する研修を行った。馬に初めて触れた参加者がほとんどで、馬の調教についての基礎を学ぶ機会となった。

※本事業は、日本NGO連携無償資金協力の資金により実施。事業全体としては3年計画。2021年3月25日～2022年3月24日まで令和2年度日本NGO連携無償資金協力により3年目の事業を実施完了。これにより3年間事業を終了した。3年間の事業により、揚水システム1式完成。4ヶ所の中継タンク及び送水ポンプ、合計4,582メートルのパイプで最大75,000Lのタンクに揚水できるようになった。その水を総合計29,758メートルのパイプから12集落のための飲料水タンク、21エリアのための農業用水タンクに水を満たすことができた。水は1000世帯の各戸に水が行き渡るために活用。最終的には1世帯当り270リットル/日(1人45L)を365日供給することにつながる。

## (2) 東日本大震災 災害復興支援

### JAFS 東日本大震災 災害復興支援

【宮城県石巻市、名取市、女川市、南三陸町】

2014年から2019年までパナソニックグループ労働組合連合会(PGU)と連携して7回実施した東日本大震災復興支援のスタディツアーは延べ225名の組合員の皆さんが参加したが、残念ながら2020年・21年は新型コロナウイルス感染拡大防止のため開催中止となった。そのため震災10年目の節目として、これまでのスタディツアーを総括する視察を2021年12月2日(金)3日(土)の2日間行った。主な視察先は宮城県名取市・石巻市・南三陸町のこれまでの植樹先と訪問先で、特に植樹については、無事保全されていることが確認できた。

### (3) 新型コロナウイルス感染症対策支援

#### JAFS 国内留学生支援

【大阪、京都、兵庫】

日本滞在中のアジア諸国からの留学生の多くは、仕送りやアルバイトで日々生計を立てているが、感染拡大防止に伴い、働き先の

レストラン等の営業停止実施により生活状況が困窮化しているため、留学生活の一部資金の一部としてサポートを実施した。

対象者:海外留学生(主にアジア諸国) 16名  
(バングラデシュ、ベトナム、中国、インドネシア、モンゴル、エジプト、ロシア)

その他、食料を中心とした物資支援を会員や企業などより支援を受け、配布をおこなった。

## 海外支援 生活困窮者支援

### 1. インド変異株支援【インド、ネパール】

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)拡大に伴い、多くの労働者が職を失い、コロナウイルスだけでなく日々の食事さえ出来なくなった人々の生活困窮による命の危機を守るため、また、感染リスクを軽減するための衛生環境確保支援や啓発活動の実施を6カ国22団体の現地ネットワーク団体と通じて実施。弱い立場の人々、社会的・経済的に困難に直面している人々14,404世帯、約529,148名へ以下の支援を行った。

支援地域	実施提携団体	支援内容
インド ガッチロリ	RUDYA	食料支援(400世帯) 衛生啓発活動(3842人) 学校の運営支援(92人)
	SPRASH-AFS Gadchiroli	食料支援(400世帯) 感染予防対策品支援(300世帯)
インド アムラワティ	HDSI	救急車1台
インド サーングリ	AFS-Sangli	食料支援(100人) 衛生啓発活動(5000人)
インド プーネ	PUNE CHAPTER (BARAMATI)	食料支援(100人の子ども)
インド ナグプール	AFS- LONARA	オキシメーター 100個/100世帯 酸素濃縮器 3個 コロナ治療キット(消毒液、マスク、 ビタミンサプリなど) 衛生啓発活動(パンフレット等配布) (150世帯/1カ月×4カ月) 食料支援(150世帯/1カ月×4カ月)
	AFS-Nagpur	食料支援、感染予防対策品支援 (150世帯/1カ月×4カ月) *良品計画よりマスク5千セット
インド アコラ	Akola Chapter	アコラ地区の500人を対象に、衛生 啓発活動、感染予防用品配布
インド ムンバイ	AFS Mumbai & Thane Chapter	感染予防品配布(マスク、アルコール 消毒等)、食料支援、衛生啓発 活動(604世帯)
インド デインディ ガル ナマカル	SSH	食料支援、衛生用品配布 (300世帯)
インド ビジャプー ル	AFS-Bijapur	食料支援、衛生用品配布 (200世帯)
	BSVIA	学校の運営支援( *良品計画よりマスク5万セット

	AFS-Ukkali	2,500本の消毒薬、5000枚のマスク
	AFS-Chandur Bazar	食料支援(260世帯)
ネパール カトマンズ ・ナワル バラシ	AFS-Nepal	農村地域150世帯、カトマンズの生 活困窮者500世帯への食料品配布 学校4校(約600名)への衛生用品 配布
フィリピン	KALIPI	地域見守り支援、物資配布
カンボジア	KAFS	地域見守り支援、衛生用品の配布
スリランカ	SARVODAYA	地域見守り支援、物資配布
タイ	TAFS	コロナ情報を手話でビデオ発信

上記支援のうち、インド、ガッチロリ(RUDYA、SPRASH)及びナグプール(AFS-Nagpur、AFS-LONARA)での活動は、ジャパンプラットフォーム(JPF)の資金により実施。事業は、両地域とも2021年7月26日から2021年11月27日まで行った。4カ月にわたり、食料支援、衛生啓発活動を実施したことで、コロナの影響を受けた貧困層の人々への生活基盤維持及び向上、衛生意識の向上につながった。

### (4) フィリピン台風被災者支援

#### ASI フィリピン・台風ユリシーズ災害復興支援

##### 【リサール州】

台風ユリシーズで壊滅的な被害を受けたルソン島リサール州で、特に困難な状況にあったカルドナ町・アンゴノ町・ロドリゲス町の住民を対象に、食料(米・缶詰・ミルク等)と感染から家族をまもるためのマスクやフェイスシールド、消毒液等の緊急支援物資の配布を引き続きおこなった。また台風により田畑や漁場、家屋を失った人々のために行政と連携し、被災者への聞き取りと生計を立て直すための支援をおこなった。

#### AFS-Pandan、AFS-South Antique

##### フィリピン・台風ライ災害緊急支援

##### 【アンティーク州】

2021年12月16日~18日にかけ大型台風ライがフィリピン中南部を横断し、240万人を超える人々が被災した。シアルガオ島、セブ島、ボホール島、パナイ島の被害が特に大きく、多くの被災地では交通・電気・水へのアクセスが寸断された。パナイ島アンティーク州の特に被害が大きかった南側、海沿いの地域を対象に、教育省・フィリピン海軍予備軍・地域行政等と連携し、支援チームを結成。

被災後、町の中心部から遠く離れているため、どこからも支援を受けることができなかった下表550世帯への食料や毛布・ライト・衛生用品等の緊急支援物資の配布と家屋が倒壊した50世帯の復旧支援をおこなった。

支援地	緊急支援物資配布	家屋倒壊復旧支援
アニヤ	100世帯	15世帯
トピアスフォルニエ	100世帯	15世帯
ティビアオ	50世帯	—
クラシ	50世帯	—
セバステ	50世帯	10世帯
リベルタ	100世帯	—
パンダン	100世帯	10世帯
合計	550世帯	50世帯

### (5) ミャンマー支援

#### MAFS 生活困窮支援

クーデター下の市民への食料等、義援金支援



東日本大震災支援 南三陸直売所みなさん館視察訪問



名取市高柳町集会所前に植樹した木の視察



フィリピン台風ライ被災者に緊急支援物資を配布(アンティーク州)



インド JPF 資金協力により実施した衛生啓発活動の様子



インド アムラワティ県のコロナ完治者搬送のための救急車を支援



ネパール 揚水システムの完成及び引き渡し式



ネパール 揚水システムによりタンクに貯められる水



ネパール タンクからパイプをつなげる作業に村人も参加

## IV. 普及啓発事業

### IV-A. 地域広報活動事業

#### 1. 本部活動

##### (1) JAFSチャリティープログラム

例年、春と秋に住道駅前北側のデッキ広場で開催していたJAFS チャリティーバザールは、新型コロナウイルス感染拡大のため中止した。

また例年、年末に開催のチャリティーパーティ「アジアン・チャリティーフェスティバル」は、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、縮小を余儀なくされたが、在関西のアジア人・留学生 20 名を含む 130 名の参加により、第 6 回を開催した。アジアからの留学生・社会人を招き、アジアと相互理解し日本人とアジア人が共生する社会づくりの一助となった。

<第 6 回アジアン・チャリティー・フェスティバル>

日 時：2021年 12 月 12 日(日) 11:45～17:00

共 催：公益財団法人大阪国際交流センター

場 所：公益財団法人大阪国際交流センター  
大会議室さくら

参加者数：130 名(内留学生(招待)30 名)

主な内容：

- ① 映画「セカイイチオイシイ水」上映 47 名視聴
- ② アジア人留学生・社会人 8 名によるパネルディスカッション「日本に来て感じたこと」
- ③ 日本殺陣道協会・皿廻し・津軽三味線、バングラデシュの歌のアトラクション
- ④ 留学生との交流ゲーム大会
- ⑤ ビンゴゲーム

チャリティー成果：

収益の一部 10 万円をコロナで困窮する人々(アジア各国&留学生)の支援に寄付した。

実行委員会 7 月～11 月 全 7 回 開催

##### (2) 国際理解教育講座

NGO が学校や団体の研修の場に入り、相互理解・協力をはかりながら人材を育てていくことを目的に実施している事業。2021 年度も NGO 活動を通じた学校や団体の国際協力参加について様々な講義・研修を行った。

NGO 講師派遣

【のべ 12 ヶ所、417 名】

- 4 月 5 日 テンプル大学ジャパン  
「フィリピンにおける JAFS 活動について」
- 6 月 7 日 関西学院大学人間福祉学部「人間福祉海外フィールドスタディ I」のゲストスピーカー (30 名)  
「ネパールという国と NGO 活動」
- 6 月 10 日 大阪女学院中・高等学校 (50 名)  
「NGO 職員として生きる」
- 6 月 25 日 大精教看護専門学校 特別講義 (38 名)

- 「ネパール日本の関係、そしてアジアの医療・保健事情とその支援活動」
- 7 月 2 日 大精教看護専門学校 文化人類学特別講義 (38 名)「ウイグル編」
- 7 月 9 日 大精教看護専門学校 文化人類学特別講義 (38 名)「JAFS の活動と国際協力」
- 7 月 12 日 大阪高齢者大学 国際文化交流科 講義 (27 名)  
「アジアと共に生きる」
- 9 月 3 日 イオンリテールワーカーズユニオン主催中国・アセアン交流フォーラム (30 名)
- 10 月 6 日 龍谷大学 国際ボランティア論特別講師 (30 名)  
「水の問題と保健衛生～ネパールの事例から～」
- 10 月 20 日 大阪大谷大学(岡島ゼミ) SDGs と水に関する学生講演(20 名)  
「JAFS が進める SDGs6 の達成に向けた活動」
- 10 月 21 日 豊中市立千成小学校 出前授業 (100 名)  
「アジアの水問題と私たちの役割」
- 12 月 9 日 大手前高等学校 国際理解授業(集中セミナー)  
(15 名+教員 1 名)  
「NGO の現状と活動/私たちの暮らしと国際支援との相互性」

##### (3) 国際ボランティア啓発活動

海外プロジェクト報告会の実施。その他、各地区にて支援事業の報告会などを随時実施。又月 1 回のぞうすいの会にて報告を実施した。また、ネパールオンラインツアーやネパール駐在員帰国後の活動報告をオンラインとオフラインのハイブリッド形式で行い、コロナ対応による報告会を実施し、引き続き開催できなかった総会時の海外プロジェクト報告会にかわる報告会の機会をつくった。

##### (4) アジア文化理解講座

国際協力を身近に感じられる催しを通じて、参加者が国際交流・支援活動への参加につなげることを目的としている。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、多くのプログラムが中止または延期となったが、各地区では可能な形で随時開催した。

##### (5) 研修生・実習生受入プログラム

大学生インターンシップ及び実習受入

◆JAFS インターンシップ制度

JAFS の人材育成事業としてのインターンシッププログラムに以下 6 名が参加し、NGO 活動を学ぶと同時に、JAFS の活動への理解

を深める機会とした。また、AYS やオンラインスタディツアー企画などコロナ禍での啓発活動を進めることができた。

- ① 当会インターンシップ募集により以下4名が活動を行った。  
野村梨帆(同志社大学) 2020年12月2日～10月1日  
高木美優(University of Queensland, Australia) 4月6日～9月30日  
村田真一(和歌山大学) 5月18日～2022年3月31日  
吉備夕姫(立命館大学) 11月27日～現在活動中
- ② 大学院及び大学の単位認定のためのインターンシップ研修員として以下2名の受け入れを行った。  
中根 杏(関西学院大学院) 3月18日～9月30日  
金子歩乃歌(秋田県立国際教養大学) 4月1日～7月30日

## (6) 法人関連プログラム

本年は新型コロナウイルス感染拡大のため、いずれもセミナーの開催は実施しなかったが、アジアからの留学生支援の一環として第2回日本語スピーチコンテストを開催した。

## (7) JAFS 社員クラブ

本年は新型コロナウイルス感染拡大のため、いずれもセミナーの開催は実施しなかったが、アジアからの留学生支援の一環として、第2回日本語スピーチコンテストを開催した。

## (8) JAFS アジア市民大学

JAFS 創立40周年記念行事の一環として、政治経済はもとより自然・社会・文化などについて多角的に、一味違うアジアを探求する場として、2019年1月に開学し、第2期はコロナ禍のため開講が2020年9月となり今年度に第11-12回を開催した。第3期は同様にコロナ禍のため開講が遅れて10月となり2022年3月までに9回開催した。

《第2期》

- ・2021年4月10日(土)14:00-16:30 官報ビル8階  
第11回「アジアのビジネス現場での体験から-タイ」  
講師:神戸学院大学教授 竹治 康公氏  
参加者:17名
- ・2021年5月29日(土)14:00-16:30 官報ビル8階  
第12回「在日として朝鮮半島南北とどう関わり合うべきか」  
講師:コリア学園常任顧問 朴氏  
参加者:16名

《第3期》

- ・2021年10月9日(土)14:00-16:30 官報ビル8階  
第1回「「米中争覇」とアジアを考える」  
講師:元朝日新聞中国・アジア総局長 加藤 千洋氏  
参加者:30名
- ・2021年10月23日(土)14:00-16:30 官報ビル8階  
第2回「中国は社会主義国か？」  
講師:京都大学名誉教授 石原 潤氏  
参加者:19名
- ・2021年11月6日(土)14:00-16:30 官報ビル8階  
第3回:「インドにおける仏教徒-ヒンドゥー教との関わり」

講師:大谷大学文学部仏教学科教授 ダシュ ショバ・ラニ氏  
参加:27名

- ・2021年11月13日(土)14:00-16:30 官報ビル8階  
第4回「東アジアの石干見文化-伝統漁法の現在」  
講師:関西学院大学 文学部 田和 正孝氏  
参加者:16名
- ・2021年11月27日(土)14:00-16:30 官報ビル8階  
第5回「許しがたいミャンマーの軍事クーデター」  
講師:東亜大学人間科学部 特任教授 西澤 信善氏  
参加者:21名
- ・2021年12月18日(土)14:00-16:30 官報ビル8階  
第6回:「ベトナムから未来のアジアの平和(福祉)への想像から創造へ-持続可能社会への提言」  
講師:日越大学・フエ大学 客員研究員 桂 良太郎氏  
参加者:26名  
懇親会(徐園にて) 参加者13名
- ・2022年1月22日(土)14:00-16:30 官報ビル8階  
第7回:「コロナ禍と発展途上国-バングラデシュの規制と抑圧」  
講師:神戸学院大学 総合リハビリテーション学部  
社会リハビリテーション学科 准教授 佐野 光彦氏  
参加者:19名
- ・2022年3月12日(土)14:00-16:30 官報ビル8階  
第8回「多様性の大国・インドの地域政策」  
講師:奈良大学 文学部教授 岡橋 秀典氏  
参加者:21名
- ・2022年3月26日(土)14:00-16:30 官報ビル8階  
第9回:「中国農業における先端技術開発の発達史」  
講師:大阪なみはや市民大学 学長 岡田 芳明氏  
参加者:21名

## (9) 第2回日本語スピーチコンテスト

アジアと日本の絆を深める活動の一環として、40周年記念行事として一昨年に第1回を開催。昨年は、新型コロナウイルス感染拡大のため中止し、その代わりにコロナ緊急支援募金により支援した留学生と支援者(会員・関係者)との交流会を開催したが、今年は第2回日本語スピーチコンテストを開催した。

日時:2021年10月3日(日)14:00-16:00  
会場:クレオ大阪中央セミナーホール(大阪市天王寺区)  
出場者:留学生 15名(バングラデシュ・ベトナム・中国・香港・ロシア)  
関係者他:35名  
内容:留学生スピーチ(日本に来て感じたことなど)  
結果:最優秀賞1名(ホアン・トイ・リンさん、ベトナム)  
優秀賞1名(韓笑さん、中国)  
奨励賞1名(カトヤル・シャモリエさん、インド)  
観客賞1名(ピライボン・ヌンマさん、タイ)

## (10) JAFS SDGs セミナー

今年は、SDGs 目標達成期間の折り返し地点となった。一人ひとりの理解と行動で私たちの地球をまもること、そして限りある資源を将来的につなげていき、サステナブルな未来のために私たちが

きることを共に考え、行動につなげる機会とするために日々の暮らしの中で見つけていきたいテーマについて、実践者よりオンラインにて話を聞くセミナー。第2弾のテーマは、～私たちの暮らしから考えるSDGs～ 5回シリーズで企画し、2021年度は5回中2回開催した。

第1回: 2月17日(木)18:00~19:30

テーマ①: 馬を使ったSDGs in SATOYAMA

講師: はたらく馬牧場 牧場長 松川一人氏

テーマ②: いま、プラスチック削減が求められる理由

講師: パシフィックコンサルタンツ(株) 技師 北山みな美氏

参加者数: 26名

第2回: 3月10日(木)

テーマ: 買いすぎ 食べ過ぎ 使いすぎ

SDGs 私たちの実践

講師: 全国友の会大阪友の会会員

参加者数: 50名

## (11) JAFS グローバルコミュニティ・カレッジ (GCC)

### 【主旨】

「今、地球は危ない」をテーマに、グローバル化した地球で起きている環境破壊など様々な問題について解決の糸口を共に考える勉強会を2020年10月より開催し、2021年11月に終了した。

期間: 2020年10月開講

日時: 基本的に毎月第4金曜日 18:30~20:30

場所: JAFS会議室

参加者数: 毎回5名程度

開催形態: 講義形式ではなく、村上事務局長はじめ会員有志が、発題者となり討論するゼミナール形式で行う。

内容: 人類益・地球益という大きな視点で未来を考える。

今年度はコロナ禍のため開催が延期続きとなり、以下の2回を開催した

第5回: 2021年10月29日 格差と貧困の問題 5名出席

第6回: 2021年11月26日 生存と正義の問題 6名出席

## (12) 関連プログラム/その他団体協力

### ◆(特活) 関西 NGO 協議会

加盟し、理事として運営に関わった。各種催しに出席及び協力活動を行った。特に、常任理事会(副代表理事)に関わり、調整業務にも協力した。

理事会/常任理事会 基本2か月毎の出席

KANSAI SDGs 市民アジェンダの事務局の役割として、分科会を実施し、関西地域においてSDGsの普及推進に協力。

同時に以下の3項目に関しても関西 NGO 協議会の役割を担っている。

- ① NGO-外務省連携推進委員: 関西の NGO と外務省の窓口の役目を担うと同時に東京での会議に出席。
- ② 関西 SDGsプラットフォーム運営委員
- ③ ワンワールドフェスティバル for Youth の運営委員

### ◆(特活) 関西国際交流団体協議会

- 1) 加盟し、監事として協力した。

2) ワン・ワールドフェスティバル: 第29回ワン・ワールドフェスティバルに実行委員会の一員として参加した。今年度も、新型コロナウイルス感染拡大のためオンライン開催となった。

期間: 2022年2月1日(火)~29日(月)

2月12日(土)13日(日)はライブ配信&オンラインイベント

場所: ワン・ワールド・フェスティバル特設サイト(オンライン)

視聴数: 65,000回

主催: ワン・ワールド・フェスティバル実行委員会

テーマ: 共に生きる世界をつくるために、一人ひとりができること

参加団体数: 110団体

参加プログラム総数: 163プログラム

### ◆(特活) 国際協力 NGO センター (JANIC)

正会員として加盟し、2019年より理事として運営に関わった。

特に正会員委員会、地方ネットワーク委員会の委員として実際の運営調整委員としての役割を担っている。

### ◆ 関西国際交流ボランティアネットワーク会議 (KIV-NET)

加盟し、運営委員として協力活動を行っている。

### ◆ 認定 NPO 法人 ジャパン・プラットフォーム (JPF)

NGO ユニット参加団体として加盟し、緊急支援時の協力関係を持っている。2021年度は新型コロナウイルス インド変異株支援助成申請をおこなった。JPFを通じ企業よりインドへのマスク物資支援を得た。

### ◆ 近畿労働金庫 地域共生推進室

協力関係を持ち、生協などの講師登録を行ったが、2020年度は依頼が無かった。

### ◆ 一般財団法人 H<sub>2</sub>O サンタ

2022年2月16日~18日 H<sub>2</sub>O サンタ 第14回NPOフェスティバル(阪急百貨店 祝祭広場)に参加。活動出展、オンラインでの動画広報、チャリティ T シャツ販売協力、募金により井戸建設事業へと充てた。

### ◆ 日本環境法律家連盟 (JELF)

加盟し、9月18日にオンラインで開催された「みどりの遺言」セミナーにビデオ参加協力した。

### ◆ もりのみやキューズモール BASE ASIAN FES2022

2022年3月21日(祝)に森之宮キューズモールで開催されたASIAN FES2022のステージ(JAFS 紹介&インド舞踊)とブース(JAFS 紹介・コーヒー&洋菓子販売)に参加した。



第6回アジア・チャリティ・フェスティバル留学生パネディスカッション

## 2. 地区活動

各地域の地区世話人を中心に、本会の活動や理念の普及を計ると共に、アジアに「理解と協力で連帯」の輪をひろげることを目指し地域の催しにも協力しながら活動をした。

- 第1エリア： 大阪府北部、兵庫県東北部  
 第2エリア： 大阪府東部  
 第3エリア： 大阪市内  
 第4エリア： 大阪府東南部  
 第5エリア： 京都府、滋賀県  
 第6エリア： 兵庫県（一部大阪近辺を除く）  
 第7エリア： 奈良県、東大阪市、八尾市、和歌山県、三重県  
 第8エリア： 大阪府西南部  
 第9エリア： 西日本  
 第10エリア： 東日本  
 第11エリア： 東海、北陸・甲信越等

### (1) 会員拡大・地区活動推進委員会

2021年度も、昨年引き続き地域の役員(地区世話人)を中心に、会員拡大・地区活動推進委員会を開き活動を進めていった。

◆本委員会の傘下で、会員拡大を多面的に考える会員拡大諮問会議を新たに設けて開催した。全5回開催。

開催日と参加者数:

- 第1回:8月1日(日)15名  
 第2回:10月10日(日)17名  
 第3回:11月14日(日)14名  
 第4回:12月11日(土)14名  
 第5回:1月22日(土)7名

#### ◆地区会長会

7月3日(土)10:30-14:00

会場:北京料理徐園

参加者:全10エリアから27名

内容:

- 卓話「JAFS地区活動の意義と地区活動に期待すること」  
村上公彦 事務局長
- 各地区近況報告(工夫していること・課題など)
- 懇談会「コロナ後の地区活動について」

#### ◆新入会員ウェルカムパーティ:

6月26日(土)10:30-13:00

会場:JAFS会議室

参加者:19名(内新入会員8名)

内容:会員記章授与、JAFS活動紹介、自己紹介&交流会

### (2) 地区世話人一覧

エリア	地区	氏名
1	尼崎	黒谷侑子
	池田	石原基義
	吹田摂津	高田晃宏

	高槻	川上礼子、佐々寿子、榊田敏弘
	茨木	金井 英夫
2	寝屋川	笠谷正博、菅原直樹、根津千枝子 畠山ひろみ
	枚方	明見睦子、天野由紀代、船戸康夫、昆文彦、山下義照
3	なにわ東	奥 眞里子、杉本 牧子、濱崎佳尚、毛利吉男
	なにわ西	風早正夫、風早茂都子、篠塚達朗、福岡好嗣
	なにわ南	落合朋子、實 清隆、木 泰輔 出口貴之、中西豊次
4	河内長野	新谷百代、丸井和子、橋本洋一
	松原	橋本末子、谷岡康男
	富田林	沖田哲男、真嶋克成、春田希代子、渡辺治彦
5	京都市	安宅義人、辻 賢二、福井えり、柳井一朗
	八幡	福川 肅
6	三田	堀 正之
	西宮	平山隆史
	神戸芦屋	岩崎準一
	姫路	荒川鉄也、中尾和子、森 梢
7	生駒郡	林 昭宏
	生駒市	有山加代子、山田穂積、渡辺昇、小山裕子
	奈良市	伊藤誠、福岡名津子、渡邊瑠璃子
	八尾	橋本隆
	新宮	瀧野秀二・三重子
8	堺高石	佐藤満昭
9	広島	宇田和博
10	東京	川崎隆二
11	愛知	壁谷桂子、清水三千夫

### (3) 第1エリア

【高槻・島本地区】伊藤エリサ、川上礼子、佐々寿子、萩原万紀子、古井紀行

今年度は、8月11日に280,000円をカンボジアの井戸建設基金として寄付する。その後、コスモニケタンを支援することになり、2022年3月14日にコスモニケタン指定寄付を20000円する。以下の行事を、清潔な水が得られないカンボジア農村の井戸基金と、コスモニケタン支援に充てる費用を得る目的で実施した。

4月9日 阿武山地震観測所見学

7月18日に 変更24名参加

4月30日 神戸ウォーク(なにわ西と合同)

6月27日に 変更17名参加

9月18日 第5回 アジアンホームパーティー

10月30日 に変更 カンボジア井戸寄贈達成記念  
留学生(カンボジア・インド)との交流茶話会  
19名参加

1月16日 第6回アジアンホームパーティー  
JAFS 高槻新年会

インド・コスモニケタン学園支援  
アジア人留学生との交流食事も  
26名参加

<定例会>原則毎月第1または第2日曜日(13:30~15:30)開催

場所:アルプラザ Café Solare

## (4) 第2エリア

### 【第2エリア合同】

<“JAFS 北河内 緑とふれあう会” > 会長:笠谷正博

- 4/10 ①じゃがいも間引き、追肥 ②玉葱畝の草取り他  
※作業後総会 参加9
- 4/24 ①玉葱の試掘 70 個 ②ミニトマト等5種植付け 参加 8
- 5/08 ①玉葱の収穫 ②跡地の「ノビル」撤去 ③キュウリ、ツルム  
ラサキ植付け 参加 8
- 5/22 ①収穫:玉葱、スナップエンドウ、そら豆、 ②(さつまいも畝  
の準備)他 参加 6
- 6/12 ①じゃがいもの収穫 ②キュウリ収穫 ③草取り他 参加 6
- 6/26 ①じゃがいもの収穫 ②枝豆、黒豆種まき ③草取り他  
参加 5
- 7/10 ①さつまいも、枝豆畝の草取り、土寄せ ②周辺草取り他  
参加 7
- 7/24 ①草取り他 参加 9
- 8/14 ①草取り他 参加 3
- 8/28 ①大根の畝作り ②イチジク、ナス、ミニトマト収穫 参加 7
- 9/12 ①大根の種まき ②南瓜、イチジク収穫 ③草取り他  
参加 6
- 9/25 ①大根、カブの間引き、追肥 ②赤カブ種まき ③草取り他  
参加 7
- 10/09 ①さつまいも、黒豆収穫 ②大根、カブ間引き ③草取り他  
参加 8
- 10/23 ①さつまいも、落花生収穫 ②玉ねぎ用畝作り ③草取り他  
参加 9
- 11/13 ①玉ねぎ 600 本植え付け ②イチゴ、そら豆、エンドウ植  
付け③大根収穫 参加 8
- 11/27 ①ミカン収穫 ②大根間引き ③草取り他 参加 8
- 12/11 ①ミカン、カブ収穫 ②草取り 参加 7
- 12/25 ①玉葱追肥 ②ミカン収穫 ③草取り 参加 7
- 01/08 ①周辺雑草取り、片付け 参加 8
- 01/22 ①ミカン追肥 ②雑草取り 参加 8
- 02/12 ①ジャガイモ用畝作り ②草取り、追肥 参加 8
- 02/26 ①ジャガイモ植付け ②草取り、追肥 参加 9
- 03/12 ①倉庫片付け清掃 ②草取り、追肥 参加 8
- 03/26 ①草取り 参加 7

※継続しているコロナ蔓延で集団活動に制約がかかり、子供たちの参加や、新規参加が少なかつたため農作物の収穫も減少傾向であった。

※定例農園作業は第2・第4土曜日 3～5 月 8:00～11:00、6～9 月 7:00～10:00、10～11 月 8:00～10:00、12～2 月 9:00～12:00 天候・作物の状態・JAFS 及び地区活動の関係等でやむを得ない場合変更あり。また臨時作業日もあり。

※ 有志による草刈り、生け垣の剪定、追肥、土寄せ、芽かき等多くの作業が随時行われている。

※ ブログ <https://blog.goo.ne.jp/midori-hureai>(または「JAFS 北河内緑とふれあう会」)

※ 当会の活動はどなたでもいつからでも自由に参加できます。

### 【枚方】 明見睦子、天野由紀代、船戸康夫、昆文彦、山下義照

4 月 11 日 地区世話人会 南部生涯学習市民センター

5 月 29 日(土) JAFS 枚方地区・寝屋川地区・四條畷地区  
合同企画緑のむろいけウォーク

※新型コロナウイルス感染拡大のため中止

- 10 月 24 日 地区世話人会  
12 月 26 日 地区世話人会  
1 月 29 日(土) 第 17 回枚方ティーサロン参加者 15 名  
お話:「ネパール駐在記」中島彩華さん  
於:枚方市民会館 3 階第1会議室

ネパールへ井戸を贈ることをめざして活動を行った。

### 【寝屋川】 笠谷正博、黒木隼彦、菅原直樹、根津千枝子、 畠山ひろみ

- 4 月 4 日 地区例会 場所:市民活動センター 5 名  
10 月 2 日～4 日 市民活動センターふれあいフェスタ 展示  
参加 場所:市民活動センター  
11 月 19 日 ふらっとねやがわ交流会  
10 月 16 日 場所:ふらっとねやがわ  
※登録団体の活動PR

ネパールへバイオガスピラント支援することを目標に活動しているが、コロナ対応により、展示や PR 活動にとどまった。

### 【守口】 橋口高明、二野英子

JAFS 守口の拠点を設け、活動を実施しているが、コロナの影響によりイベント等の中止に伴い活動ができなかった。定期的にミーティングを実施し、活動準備をおこなった。

## (5) 第3エリア

【大阪市なにわ西】 沖本然生・齋藤かおる・伊藤 勝・新羅和子・  
篠塚達朗・風早茂都子・風早正夫・鳥居京子・西田愉子(例会は  
JAFS 5 階会議室)

### 【2021 年度総括】

大阪おもしろウォーク、歴史散歩等で 10 万円の収入目標を建てていたが、引き続きのコロナ禍、緊急事態制限等で、思うように活動できなかった。例会は、今年度は 6 回に、イベントは 5 回実施に止まった。昨年度からの収益と合わせて 7 月に 10 万円の寄付を本部に行った

- 4 月 13 日 4 月度例会 出席 7 名 年度活動計画策定  
5/30 神戸北野ウォーク、6/5 中之島蔵屋敷  
等  
6 月 22 日 6 月度例会 異さんを入れて 8 名参加 5/30  
⇒6/27 神戸北野ウォーク実施 6/5 ⇒7/4  
中之島蔵屋敷ウォーク実施に変更  
6 月 27 日 コロナの為 5/30⇒6/27 に変更 神戸歴史ウ  
ォーク実施(国境を超える人々 三教会と  
人道支援・ユダヤ共同体)  
7 月 4 日 大阪中之島蔵屋敷巡り実施  
7 月 20 日 7 月度例会 出席 8 名

JAFS へ 10 万円寄付決定

- 道頓堀ウォーク 9/26 実施 建部大社と紫式  
部の石山寺を 10/16 に実施すること決定  
10 月 3 日 9/26 を変更「道頓堀ウォーク」を実施。好  
天 26 名参加  
10 月 5 日 10 月度例会 出席 7 名  
10 月 16 日 「建部大社と紫式部の石山寺」実施 参加  
11 名参加  
11 月 16 日 11 月度例会 出席 7 名  
11 月 21 日 「上町台地の謎を辿る」実施 参加 21 名

(22年1月～21月まで、コロナの為例会・イベント実施せず)  
 2022年 22年3月度例会 出席7名 4月以降のイベント実施の打合せ  
 3月8日

**【大阪なにわ南】中西豊次、出口貴之、木本泰輔、實清隆**

4月22日 なにわ南地区役員会  
 場所:JAFS 事務所会議室 参加者:4名  
 10月21日 なにわ南地区役員会 他地区の活動を学ぶ  
 場所:JAFS 事務所介護室 参加者:7名  
 2月19日 なにわ南地区役員会  
 次年度の活動内容協議  
 場所:アーキショップノアノア  
 参加者:5名  
 3月10日 なにわ南地区役員会  
 ノアノアを拠点とする具体的な活動内容を協議  
 場所:アーキショップノアノア  
 参加者:5名  
 3月21日 もりのみやキューズモール BASE ASIAN FES2022  
 チャリティ出展

**(6) 第4エリア**

**【河内長野・大阪狭山市】渡邊喜久次、飯坂 保、今井利子、新谷百代、白井春夫、丸井和子**

2022年 世話人会 場所:モダカ  
 1月15日 内容 コロナ禍のため、各種イベントが中止になり、思うように活動ができなかった。  
 役員の高齢化や入院のため委員会がほとんど開けなかった。 参加者:3名

**【南河内・松原地区】橋本末子、谷岡康男**

地域に住んでいる外国にルーツを持つ子ども達の交流会を通し、大学生、青年、次を担う高校生がつながれる場づくり、多文化共生社会を目指して活動

6月17日 カラフルまつばら若者の集い  
 場所:布忍小学校  
 参加者:25名  
 7月3日 第3回子ども国際交流ひろば in 3中校区  
 場所:松原市立布忍小学校  
 参加者:130名  
 7月10日 第3回子ども国際交流ひろば in 6中校区  
 場所:松原市立東小学校  
 参加者:30名  
 8月7日 子ども国際交流ひろば感想会(参加者)  
 場所:布忍小学校  
 参加者:15名  
 9月4日 カラフルまつばら若者の集い  
 場所:布忍小学校  
 参加者:  
 9月25日 第1回カラフルキッズ  
 場所:はーとびゅー  
 参加者:20名  
 10月23日 第2回カラフルキッズ(デイバート)  
 場所:はーとびゅー  
 参加者:児童20名、大人10名

10月30日 カラフルまつばら若者集い  
 場所:布忍小学校  
 参加者:20名  
 11月 里子エソダちゃん教育支援バザー&募金  
 15日~19日 場所:松原3中、布忍小、中央小、三宅小、  
 恵我小(各学校教職員)  
 11月20日 第3回カラフルキッズ(ブラジル)  
 場所:はーとびゅー  
 参加者:20名  
 12月4日 カラフル子ども国際交流ひろば  
 場所:布忍小学校  
 参加者:80名  
 12月18日 第4回カラフルキッズ(フィリピン)  
 場所:はーとびゅー  
 参加者:30名  
 2022年 第5回カラフルキッズ(ベトナム)  
 1月15日 場所:はーとびゅー  
 参加者:40  
 3月19日 第6回カラフルキッズ(小学校卒業生エール)  
 場所:はーとびゅー  
 参加者:子ども19名、大人16名

★スタッフ会議は、ほぼ毎月、松原総合福祉会館にて開催。  
 ★2020年度 JAFS 海外プロジェクト里親の会  
 ネパール里親の会 エソダちゃん「フレンドサポート」支援  
 コロナ禍で例年実施の第3中学校フェスタが中止となり、代わりに教職員に協力いただいた。  
 ★松原ボランティア連絡会月例会出席

**【富田林】沖田哲男、真嶋克成、古川光照、岡本修、春田希代子  
 渡辺治彦**

2022年 富田林地区役員会 役員調整、年間行  
 3月20日 事計画打合せ ならびに行事予定箇所の  
 下見。  
 場所:寺内町交流館、他  
 参加者:4名  
 2021年度の行事については、コロナ対応のため全て中止

**(7) 第5エリア**

**【京都・宇治・野洲・八幡】辻賢二、金井英夫、福井えり、柳井一朗、  
 安宅義人、井上勇一、木川喜代司、菅廣啓史、他谷尚、福川肅】**

アジアの子ども達の教育支援を目的に下記の活動を実施した。

4月12日 京都地区会 場所:洛南教会 参加者:6名  
 7月5日 京都地区会 場所:洛南教会 参加者:8名  
 9月6日 京都地区会 場所:洛南教会 参加者:7名  
 9月30日 京都地区会 場所:洛南教会 参加者:7名  
 10月19日 京都地区アジア勉強会 場所:洛南教会  
 『国際協力の良さ・楽しみ』 参加者:11名  
 講師:村上公彦事務局長  
 11月13日 京都チャリティウォーク  
 『幕末維新の伏見と酒蔵を歩く』  
 場所:京都市伏見区 参加者:16名  
 11月23日 バザールカフェ フィエスタ参加 online  
 11月26日 京都地区会 場所:洛南教会 参加者:7名  
 12月12日 第6回アジアチャリティフェスティバル出展  
 11月~ シュトーレンで子どもの教育支援!  
 12月 協力:306口

- 1月21日 京都地区会 場所:洛南教会 参加者:6名  
 2月14日 京都地区会 場所:洛南教会 参加者:6名  
 3月12日 第5回 竹中真 京都チャリティピアノコンサート →コロナ禍のため延期  
 3月14日 京都地区会 場所:洛南教会 参加者:7名  
 3月21日 もりのみやキューズモール BASE ASIAN FES2022 出展

## (8) 第6エリア

### 【西宮】平山隆史

コロナ禍のため、西宮国際交流デーのイベントはあったが出展は見送りとした。

### 【三田】堀 正之、新城綾奈

- 11月23日 フレンドシップディ参加  
 場所:三田市

## (9) 第7エリア

【奈良市・生駒市】渡辺昇、山下良一、有山加代子、小山裕子、沢田薫、井上美穂、野池徹、鈴木信克、山田穂積、伊藤ヒサ、堀内眞弓、前田乙美、林昭宏、渡邊瑠璃子、東久保勝彦、伊藤誠、和田達生、福岡名津子、嶋崎稜子、篠木精治、嶋崎貴行、古本靖久、古本みさ

- 7月18日 生駒地区会 トリアンチャリティーバザール IN まどか村 フリーマーケット出店  
 場所:生駒市まどか村 参加者:5名  
 7月28日 奈良地区会第2回会議 場所:奈良市  
 ドングリフェスタ、トリアンチャリティーフェス・フリーマーケット(@まどか村)出店などの打ち合わせ 参加者:7名  
 8月18日 奈良地区会第3回会議 場所:奈良市  
 同上 参加者:7名  
 9月13日 奈良地区会第4回会議 場所:奈良市  
 同上 参加者:7名  
 9月19日 トリアンチャリティーバザールに出店 奈良地区会&生駒地区会  
 場所:生駒市まどか村 参加者:5名+5名  
 10月11日 奈良地区会第5回会議 場所:奈良市  
 ドングリフェスタ打ち合わせ 参加者:7名  
 10月17日 トリアンチャリティーバザール出店 奈良地区会&生駒地区会  
 場所:生駒市まどか村 参加者:3名+5名  
 10月18日 第1回生駒英語講演会  
 場所:生駒市鹿ノ台いきいきホール  
 参加者:3名  
 10月23日 奈良地区会 第2回ドングリフェスティバル開催 場所:奈良市鳥見町 参加者:20名  
 奈良地区会第6回会議 場所:奈良市  
 11月15日 ドングリフェスの反省会と次期に向けた打ち合わせ 参加者:7名  
 11月21日 トリアンチャリティーバザール出店 奈良地区会&生駒地区会  
 場所:生駒市まどか村 参加者:3名+5名  
 12月19日 トリアンチャリティーバザール出店 生駒地区会  
 場所:生駒市まどか村 参加者:5名

- 2022年  
 1月17日 生駒地区会 ラインミーティング  
 場所:生駒市 参加者:8名  
 2月6日 ららぽーとまつり実行委員会会議  
 場所:生駒市 参加者2名  
 3月17日 生駒地区会会議  
 場所:生駒オレンジ屋 参加者7名  
 3月20日 生駒地区会 トリアンチャリティーフェスティバル IN まどか村 フリーマーケット出店  
 場所:生駒市まどか村 参加者:5名

## (10) 第8エリア

### 【堺市・高石市・和泉市】佐藤満昭

- 毎月不定期 佐藤手芸教室バザー  
 個人宅にて、教室メンバー、知人相手に小規模バザーを不定期に開催し、収益は年末募金、ネパール井戸建設へに寄贈した。  
 2022年 第3回チャリティ玉手箱展を支援した。  
 1月10日~26日 新春チャリティ展として継続23年目。  
 日 併設:期間内土日開催 個人ミニバザー  
 画廊いろは様からの寄付とは年末募金、ネパール井戸建設に寄贈。またミニバザーを行い、年末募金、フィリピン災害支援に寄付。場所:堺市甲斐町ギャラリーいろはに

## (11) 第9、10エリア

【関東活動委員会】岩田芳晴、川崎隆二、高岸康泰子、森山涼子、原 京、端無勝、佐藤理香、田中政直、河合典子、山本隆、井坂勝則、長谷川雅子、本間一将、田中壽美子

湯川理事長のご厚意により銀座キャビネットビルを中心に活動委員会を行っている。

新型コロナ禍の中 Zoom 会議も取り入れ、少しずつだ動き始めた。現在 Zoom 会議に参加できる人が限られており、アクセス方法を広めることが課題である。篠原会長との懇話会・報告会はコロナが収まったのちに、関東地域メンバーとの交流を目的に集合形式と ZOOMを併用でできるよう検討する。

グローバルフェスタ 2021 は室内(東京フォーラム)で2年ぶりに開催され、展示と ZOOM会議(第7回 AYS報告)で参加。JAFS 本部・海外と共に開催された「海ごみ拾い」に JAFS 関東として参加。

○委員会開催:14回

○支援プロジェクト:日印友好学園パダトラ小学校の5人の里子支援

主な活動

・グローバルフェスタ参加(東京フォーラム):10月9-10日

・海ごみ拾い「ブルーオーシャン作戦」開催(東京都葛西臨海公園):11月27日

・オンラインセミナーに向けての取り組み

## 3. 広報

### (1) アジアネット

アジア各地で様々な支援活動を展開している本会の事業を、年4回発行の会報「アジアネット」誌面で紹介した。またコロナ禍中のアジアの様子を紹介し、コロナ募金への協力を呼びかけた。会員や寄付者などの支援者に「アジアネット」を送付するとともに、新た

に本会を知る人を増やすべく、全国の国際関連施設の情報コーナーなど公開スペースに向けても送付した。またホームページ上でも公開した。

《アジアネット発行実績》

◆146号 2021年7月発行（36ページ、4,600部）

- 表紙写真 コロナが大流行するインドで、ワクチン接種に並ぶ人々
- 巻頭言 「鹿の王」たちの遺志引き継いで
- 特集 新型コロナ禍の中で⑤
- 井戸寄贈報告
- 函解 井戸ができるまで
- 2020年度の活動報告／2021年度の実施予定  
貧困対策、環境、水、子ども、国際交流、罹災者支援、サイクル・エイド、国内での普及啓発
- 2021年度 社員総会報告
- JAFS プラザ 国内の活動
- 新入会員ご紹介・領収報告
- ネパール揚水事業 3年目に
- 環境コラム、編集後記

◆147号 2021年10月発行（24ページ、4,300部）

- 表紙写真 蛇の神様に祈るネパールの祭りの日。ロックダウンの中、多くの人がマスクをしてお寺に集まった
- 巻頭言 アジアの人々の心を知る大学に
- 特集 新型コロナ禍の中で⑥
- 井戸掘り=私のへき地医療の原点
- もっと良い医療を！インドの村々へ
- 10カ国参加アジア・ユースサミット
- 道路の遅れから地域格差－ネパール報告
- 「活躍するアジア人」
- 井戸寄贈報告
- JAFS プラザ 国内の活動
- 新入会員ご紹介・領収報告
- 新・The 社会貢献 法人会員紹介
- 環境コラム、編集後記

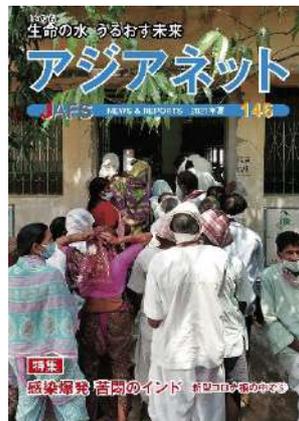
◆148号 2022年1月発行（32ページ、4,300部）

- 表紙写真 3カ国5地域が同時に行った海ごみ拾いブルー・オーシャン作戦。バリ島ではカヌーでごみ回収
- 巻頭言 「自立」と「自律」－人類共通の目標
- 特集 新型コロナ禍の中で⑦
- 第7回アジア・ユースサミット詳報
- 第2回日本語スピーチコンテスト
- アリヤマトネ博士から連帯メッセージ
- プラゴミー掃 ブルー・オーシャン作戦
- 井戸寄贈報告
- ネパール報告
- 新入会員ご紹介・領収報告
- JAFS プラザ 国内の活動
- 環境コラム、編集後記

◆149号 2022年4月発行（32ページ、4,300部）

- 表紙写真 台風ライがフィリピンを襲い、倒壊した家の前でぼう然とする被災者女性
- 巻頭言 よいことは必ず出来る
- 特集 新型コロナ禍の中で⑧
- フィリピン台風ライ緊急支援報告
- 人付き合いの大切さ－ネパール駐在記

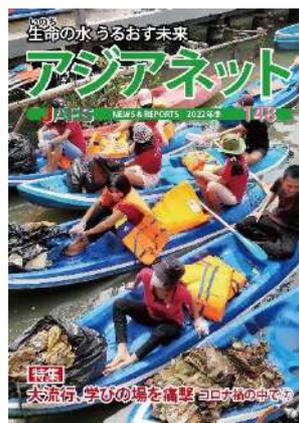
- アジアの教育現場から支援の要請
- アジアの子どもたちを支え励まし 30年
- 井戸寄贈報告
- 東日本大震災 10年後の復興支援地
- JAFS プラザ 国内の活動
- 新入会員ご紹介・領収報告
- 「活躍するアジア人」
- 環境コラム、編集後記



第146号



第147号



第148号



第149号

（2）ホームページ／SNS

ホームページについては、リニューアルから1年半が経過した時点で改善が必要な点を検討し、募集中の寄付が目に入りやすく、また寄付ページへの導線を増やすよう改良した。進行中プロジェクトの一覧も見やすく改善した。  
また、フェイスブックやインスタグラムなどの SNS や YouTube によっても、本会の活動状況、ニュースやイベント情報、アジア文化情報などを、随時更新し発信した。

<ホームページ> <https://jafs.or.jp>

<フェイスブック> <https://www.facebook.com/JAFS.NGO>

<インスタグラム> [https://www.instagram.com/jafs\\_ngo/](https://www.instagram.com/jafs_ngo/)

<YouTube>

<https://www.youtube.com/channel/UCIlg56EEmMuMIFJyvRHxuEUQ/featured>

## 4. プロジェクト支援会 (ファミリーグループ)

### (1) ぞうすいの会

(風早茂都子)

「ぞうすいの会」の「ぞうすい」は、「雑炊」「増水」「贈水」の意味をかねている。質素な雑炊をとることで自分たちの過食や健康を見直すとともに、「ぞうすいの会」への参加費を積み立てて、アジアの人々に井戸などを贈り、衛生的な水の供給を行ってきた。例年、毎月1回(年間11回※8月休み)開催してきたが、今年もコロナ禍の為、4回しか開催できなかった。アジア協会アジア友の会事務局から各国でのプロジェクトについての現状を聞きながら、季節の香り高い雑炊を頂いている。今後も、会員のみなさまの深いご理解と温かいご支援を得ながら、活動を続けていきたい。

- 10月12日 第386回  
スピーカー:立命館大学大学院 カトヤルシャモリエ  
インド人留学生が語る「日本とインド」  
参加14名
- 11月9日 第387回  
スピーカー:熱田 典子副事務局長  
「ネパール揚水システム設置事業報告」  
参加14名
- 12月14日 第388回  
スピーカー:川本 裕子  
「ブルーオーシャン作戦(ゴミ拾い)報告」  
参加17名
- 1月11日 第389回  
スピーカー:岡本 佳子  
「2021年12月フィリピン台風被害状況報告と緊急支援のお願い」  
参加9名

### (2) アジア井戸ばたサロン

(代表 澤村和子 顧問 小原純子)

『1990年「WINA2000」アジア国際女性会議』(小原純子JAFS副会長 企画実施)がインドネシアで開催された。これを機に1992年アジアの女性の地位向上に寄与するという目的で「アジア井戸ばたサロン」の活動を始めた。

「和」の心を基に、和紙を中心としたサロン独自の手作り作品、その他工芸品作りなどに力を入れ活動を続けている。作品も多彩となり成果を上げ、本年度も目的達成のために設立された「水がめ基金」から「JAFS里親の会」に例年通りの支援をした。さらに毎年アジアで行われている「アジア国際ネットワークセミナー」(AINS)での参加者プレゼント用の手作り作品の製作を続けている。だが今年度も、昨年度に続くコロナ禍による自粛のため開催されず、残念ながら協力もできていない。またメンバーによる作品作りの時間も制約された。

#### <活動>

- ペーパークラフトを主に手作り工芸品の製作  
(季節のカード・色紙・メモ帳・箸袋・香袋など)
- ・毎週火曜日 午後1時～3時

### (3) スリランカ・サルボダヤ友の会

(代表 小澤 勇)

スリランカ現地提携団体 NGO「サルボダヤ」との絆を深め、農村開発運動を支援し活動の輪を広げることを目的とする。スリランカを知り、楽しむイベント・講座等を開催や、活動支援のためバザー等に出展し、様々なボランティア活動をおこなっている。今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、活動が制限されたが、メール等で情報を共有し、農村開発活動とともに井戸や植林のプロジェクトを支援した。

### (4) 日印友好学園支援会

(支援会会長 柏木道子) 支援会メンバー:9名

2021年度は、日印友好学園コスモニケタンの運営を引き続き支援した。

コロナ禍の中、州政府の指示により対面での授業は度々中止を余儀なくされ、オンライン授業なども行ったが、インターネット環境がなかったりスマホのない家庭も多く、多くの困難に直面した。学園の運営状況においては、里親数も減少傾向にあるため支援額も減少した。コスモニケタンの自立に向けて現地と共に取り組んでいる。

対面での支援会開催ができなかったが、オンラインでの会議や随時情報の交換・共有・検討を行った。

### (5) JAFSネパールへのかけ橋

(代表 岡田光浩 書記 渡辺治彦)

ネパールをこよなく愛する者を参加資格とし、JAFSのネパールでの活動の支援を目的とし2000年に発足する。

活動のテーマは、「ネパールの子供たちの支援」。2003年度より、冬季ワークキャンプ(バイオガス建設ワークキャンプ)の自主活動を継続し、バザーによる資金調達・現地でのボランティアワークなどを行ってきた。原則として、毎月1回(第2土曜日17時～)例会を行ってきた。今年度の活動内容は以下の通り。

今年度の活動内容は、ネバ橋結成20周年に伴う、各種イベントの企画等を検討していましたが、昨年度に引き続きコロナ感染拡大による緊急事態宣言などにより思うように活動が実施できませんでしたが、各種イベントの実現に向けた取組とネパールのコロナ支援のためのチャリティーCD「MAYAJAND(ネパールバンド:KUTUMBA&サクセス奏者:清水利香)」の販売支援の実施と、1回でしたが久しぶりのバザーの開催と地区会の協力により17万円程度の収益があり、ボテシバ村への配水工事の支援を行うことができました。

また、継続的支援として里親の会を通して、ピトゥリ村の元里子で身体障害をもつフルマヤさんの自立支援を実施しています。次年度も、新型コロナの影響による活動の影響が懸念されますが、栄養士育成のために来日しているネパール人メンバーのサポートや交流を実施し、広くネパールに興味を持っていただけるようなイベントの検討など、引き続き魅力ある活動となるように検討を進めていきたい。

- 4月10日 例会 (5名)  
5月8日 例会 Zoom会議 (5名)  
6月12日 例会 Zoom会議 (5名)  
7月10日 例会 コロナにより中止  
8月7日 例会 コロナにより中止  
9月11日 例会 Zoom会議 (5名)  
10月9日 例会 (6名)※Zoom参加  
(マレーシアより:里奈ちゃん)  
11月13日 例会 (5名)※Zoom参加(ネパールより参加:ピ

マラ)  
 11月23日 枚方多文化フェスティバル出店  
 12月4日 例会・忘年会 アジアンガーデンダイニングASAN(11名)  
 1月15日 例会 Zoom会議 (4名)  
 2月12日 例会 Zoom会議 (2名)  
 3月26日 例会 (7名)※Zoom参加(一瀬さん・長くん)

## (6) PAON

(代表 谷阪洋子)

アジア家庭料理教室の参加者の中から有志のメンバーが集まり、料理を活かしたボランティア活動をおこなっている。アジア各地の料理を通じて、各地域の文化を体験・理解することと、その活動の中で、必要とされる支援を行っていく事を目的としている。今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、活動が制限されたが、アジアで安全な飲料水を必要としている地域への支援を目標に活動した。

## (7) JAFS オアシス会 (中国教育医療支援会)

(代表 ジャミラ ウライム)

オアシス会はアジアの中に“理解と協力と連帯”の輪を拓けるといふ JAFS 基本理念をすすめていくために、シルクロードを中心に相互の国の文化や歴史を学び、お互いに尊重し、理解し合う場を創り出すことを目的とする。今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、活動が制限されたが、メール等で情報共有・意見交換をおこなった。

## (8) アジアネットワーク奨学会

(代表 古賀 旭)

アジアネットワーク奨学会は、専門職を通して将来アジア社会の発展や人々の福祉の向上に大きく貢献するとみなされる若手の人材育英資金(奨学金等)を支給するための支援会である。2021年度は、インドの現地提携団体の HDSI の後継者である Mr. Gaius Thorat のナグプール大学社会開発学科(3年目)の学費の支援をおこなった。

## (9) ネパール子ども夢基金

ネパールの子どもたちが「夢」そして「希望」のあふれた未来作りができるよう、様々な体験を通じた成長を目指す子どもたちの教育支援。会員として支援者を募ると共に、子ども環境セミナー実施が新型コロナウイルス感染症の影響で実施できず、テキスト配布の支援を行った。

## (10) ネパール地域医療支援会

(担当理事:小原純子副会長)

ネパールの農村エリアの地域医療向上及び母子保健向上をサポートする支援会。

今年度は、山間地の女性たちの生理用布パッドを手作りで作る活動を引き続き実施し、新型コロナの感染状況を見ながら事務局でまた自宅などでの作成によりネパールでのナプキン作成につながる準備を行った。また支援金のために引き続きプルトップ回収を

おこなった。

## (11) JAFS パンダン交流会

フィリピン アンティケ州パンダン町の飲料水支援事業を契機に、つながったパンダン町民との継続交流及び、その機会に知り合った障がい者の人たちとの支援・交流を継続することを目的に準備会を開催。設立に向けて活動を開始した。

## (12) JAFS バーラト会

(代表 巽 正憲)

バーラト会 2021年度活動報告 毎月第3火曜 18:30~20:00 インド国歌を歌い、チャイを飲みながらインドの歴史、文化、最近のインド情勢等について学習しています。コロナのため5月~9月はLINEで会報を流した。インド映画の会やインディアンダンスのイベントにも参加した。例会延べ30人、LINE参加延べ66人計96人の参加者。会報は72号まで発行

## (13) JAFS 歌声サロン

(代表 風早茂都子 演奏 有山京子)

ピアニスト有山京子の伴奏をバックに、その場でリクエストをし、好きな歌を歌い、腹式呼吸法で健康増進にもなる。日頃のストレスを発散しながら、国際貢献をする自主活動グループ。今年度は岡山で開始し、関西ではコロナの影響により、活動ができなかった。

## (14) JAFS いのちの会枚方

(代表 明見睦子)

インド タミルナドゥ州の HIV AIDS に苦しむ1家族への支援をおこなった。

今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、活動を行えず予定の支援金は十分に準備できない状況であった。

## (15) 留学生コミュニティ

~Design the Community~

留学生と日本の学生が交流し、互いに支え合うことができる社会、コミュニティを目指して Design the Community を11月1日に設立。

留学生に日本社会の情報を手軽に、日本人に国内にいる留学生の存在、情報を手軽に得ることができるようインスタグラムを通して情報発信を行っている。

2021年度は4月に1度オンラインイベントを開催した。

## (16) JAFS 歩く会 ”道楽の集い“

(代表 石原 基義 大本 和子)

2021年4月、コロナの収束がいつなのか先行きの見えない中、会員有志によりアジアフレンドシップ夢基金の支援会として“道楽(道を楽しむ)の集い”通称 JAFS 歩く会を発足する。2022年3月まで計9回開催し、延べ92名の参加費を夢基金に支援した。



第2回日本語スピーチコンテスト



第3期第1回アジア市民大学加藤先生



協力出展した もりのみやキューズモール ASIAN FES2022

## 5. 関連市民活動

### (1) 関西ナショナル・トラスト協会

(代表 山竹 継男)

事業の内容:次世代に残す自然文化(京都市南丹市美山町にある「美山楽舎」の活用、新淀川河川敷での環境活動(しじみ採り)などを通じて、地方の活性化、都市部の青少年の育成を行うことを目的とする。

#### (1) 自然環境保全事業

内容: 本年度の活動は、コロナ禍のため会員及び一般に呼びかけて実施することは制限された。

- 5月9日 美山楽舎の圃場にて2021年度田植えの実施(大内区との協議で6名参加)
- 5月30日 美山ベニバナヤマシャクヤク鑑賞会⇒中止
- 7月4日しじみ獲り(新淀川河川敷)⇒中止

#### (2) 保有・管理財産活用事業

内容:京都市南丹市に保有する「美山楽舎」の土地・建物を会員及び一般に有料で貸し出し、築160年の古民家、周辺の圃場での体験を通してナショナル・トラスト運動の意味を考えてもらう。

- 美山楽舎1階一部床下落下の為に改築工事に取り掛かる(11月下旬～3月末完了予定)

#### (4) 農林漁業生産支援事業

内容:農山村地域の行事に積極的に参加する予定であったが、本年はコロナ禍のため、集まることは制限され、会員や一般の皆さんには参加が難しい中、11月以降に南丹市八木町日吉町の屋外にて農作業の支援と住民との交流会も出来ました。

- 5月30日 美山町大内区「奥庵堂」お参り日役に参加(3名)
- 11月14日 南丹市八木町本郷地区 芋ほり手伝い(3名)
- 2月6日 美山神谷区 雪祭り⇒中止
- 3月13日 南丹市日吉町新シ区ニンニク追肥&交流会(6名)

### (2) 日本を良くする会 (Make Japan)

(代表:萩尾千里、大阪グループ代表幹事:橋口高明)

本会の国際協力フィードバック事業の一環として、本会会員有志が主催する市民の会。活動目的は、「世界から尊敬されかつ信頼される国(社会)づくり」。日本の望ましい社会像、あるべき人間像を求めて、以下の諸活動に参加する創造的市民の会を目指している。発足は2006年12月。

#### <年間を通じての基調テーマ>

1. 憲法改正の論議(終戦時GHQによる押しつけ憲法に由来する)
2. 外交・防衛関係(対中、対北、対韓、対露)など周辺諸国との摩擦
3. 国内政官界の衰弱と綱紀の弛緩
4. 国内の社会時事問題
5. 会の運営方針
6. その他

#### <2021年定例会>

新型コロナウイルス感染症の影響により活動を一時中止した。

## IV-B. 環境保全・環境教育（国際グリーンスカウト活動）

### （１）土と水と緑の学校

次世代の子どもたちが、地球の基本である土、水、緑の自然の大切さ・役割を体で感じ取って学ぶ自然環境教育プログラム。山と川と海に囲まれた和歌山県新宮市高田で、子どもたちがリーダーと共に各寺子屋を5泊6日で例年開催し、今年は「第36回土と水と緑の学校」を2021年8月に実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大のため昨年度に続いて中止した。

### （２）美山 土と水と緑の自然学校

本プログラムの特徴は、「農村と都市の交流」である。自然体験だけでなく、農村に暮らす人々との交流を通し、森林の活用、身近にある自然・文化と生活のつながりなど、自然を大切にすることの意味を学び、自然や周りの人々など多くのものに支えられていること、そのつながりを実感することで他者や自然を思いやる心を育てることを目的としている。

第8回 美山「土と水と緑の自然学校」は、2022年3月に、京都府南丹市美山町大内地区にて開催する予定であったが、今年度も新型コロナウイルス感染拡大のため中止した。

### （３）各部会活動

国際グリーンスカウト運動とは「Think Globally, Act Locally(地球規模で考え、地域で行動を)」をモットーとした「地球市民による地球環境保全活動」を目指す本会提唱のプログラムである。AFSの海外ネットワーク(インド、スリランカ、フィリピン、ネパール、タイ)を通じて国際的に展開している。国内でも、このモットーに基づき、各地でグリーンスカウト隊が活動を行なっている。

#### ◆国際グリーンスカウト大阪◆

活動内容

年間を通して京都府南丹市美山町にて農業体験を実施、集落支援活動を通じて、青少年環育活動を行っているが、今年も昨年に引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響で活動が中止となった。

#### ◆国際グリーンスカウト吹田◆

(主なメンバー:杉原貴、雨森清忠、越智久美子)

地球規模で環境保全を考え、そのために自分たちの住む地域で出来ることをやっというグリーンスカウトの理念を実現するために、2001年に京都府美山町で行われたグリーンスカウトの国際大会で知り合ったメンバー同志で活動チームを結成。環境保全活動およびその教育の持続と実行のため、2003年より毎月第1土曜日に吹田市の糸田川の清掃を月1回行っている。2004年より2022年3月までのゴミの総量は2,322kg、延べ参加人数818人。

2003年より、毎年7月には子どもたちを連れて無人島でキャンプを行っているが今年は新型コロナウイルス感染リスクを考慮し、中止とした。

<糸田川清掃、環境保全活動>

毎月一回、基本的に第一土曜日に実施。

参加人数は3~4人。

2021年度実施日:4月3日8キロ、7月3日6.5キロ、10月2日5.5キロ、11月6日2.5キロ、12月4日13キロ、1月15日11キロ、2月5日7キロ、3月5日3キロ 計8回活動 58.5キロのゴミを収集した。

#### ◆AFS ブルーオーシャンレンジャー◆

プラスチックごみを始めとするごみ問題が、各地域の生活環境を不衛生にするのみならず、地球環境規模でも海洋プラスチック汚染など大きな問題になっており、また、海洋へのプラスチック流出量上位には、アジアの国々が多く入っている。この現状の中、AFSネットワークを生かして、日本を含むアジア諸国が共にごみ問題に取り組む「AFSブルーオーシャンレンジャー」活動を開始した。

まずは11月20日に、大阪と東京、フィリピンのソルソゴン州マトノグ、インドネシアのアチェ州バンダアチェとバリ島の3カ国5地域で、同時間帯に海辺のごみを回収するクリーンアップ活動を行った。併せて活動中にオンライン交流も行い、国を越えて各地域の状況を共有するとともに、相互に刺激し合うことにより活動意欲を高めた。



糸田川の清掃を終え、その日のゴミの前で(GS吹田)



大阪・二色の浜でのクリーンアップ活動(AFSブルーオーシャンレンジャー)



地区長会の様子



ウエルカムパーティの様子



JAFS 高槻アジアホームパーティ記念写真



枚方地区 ティーサロンでネパールの報告をする中島駐在員



道楽の会 石清水八幡宮を訪ねて



関東地区連絡会 グローバルフェスタ出展



北河内緑とふれあう会活動の様子 作業の様子



ネパールへのかけ橋 枚方多文化フェスにチャリティ参加



京都地区 もりのみやキューズモール ASIAN FES2022 チャリティ参加



ネパール 現地の様子を見るオンラインツアーの参加者



神戸ウォーク



岡山県 で開始された歌声サロン



第5エリア 幕末維新の伏見と酒蔵を歩く



ネパール事業に関する中島駐在員よりの報告会

## V. 運営管理

### V-A. 社員総会

公益社団法人アジア協会アジア友の会第10回社員総会を下記の通り開催した。定款第16条の定めにより櫻井副会長が議長となり議事を進行した。現在の社員数202名の内、出席社員数172名（当日出席、オンライン出席者及び議決権行使書提出者）で、過半数に達し、総会は適法に成立していることを宣した。

日 時：2021年6月12日(土)14時～14時30分

会 場：肥後橋官報ビル8階会議室

議 案：I. 決議事項

第1号議案『2020年度計算書類（貸借対照表及び正味財産増減計算書）、同附属明細書及び財産目録承認』の件

第2号議案『役員を選任』の件

上記の決議事項に関して、異議なく承認された。

### V-B. 役員一覧

役 職	氏 名	経 歴
会 長	篠原 勝弘	公益財団法人 CIESF 理事兼カンボジア代表、元 駐カンボジア特命全権大使
理 事 長	湯川 剛	株式会社 OSG コーポレーション 代表取締役 会長・CEO
副 会 長	小原 純子	一般財団法人大阪市男女共同参画のまち創生協会 前理事長、現名誉顧問
	櫻井 紘哉	元 株式会社三和銀行管財部長、（学）芦屋学園 理事
	法花 敏郎	元 株式会社朝日ビルディング 社長
専務理事 事務局長	村上 公彦	日本基督教団 寝屋川教会 牧師（本会創設者）
常務理事	富松 英二	元 三菱電機株式会社 通信機製作所 開発管理担当部長
常任理事	池田 直樹	あすなる法律事務所 弁護士
	井上 勇一	日本キリスト教団 洛南教会 牧師
	上野 孝一	寝屋川十字の園 施設長
	沖田 文明	特定非営利活動法人関西ナショナル・トラスト協会 副代表理事
	金井 英夫	元 IBM-Japan コンサルティング事業部ソリューションコンサルタント次長
	齋藤 公代	元 大阪北生協機関紙むつみ・タウン誌ライブタウン編集長
	實 清隆	奈良大学名誉教授
	西田 貞之	有限会社西田興産 代表取締役 元大阪府職員
	福澤 邦治	パナソニックグループ労働組合連合会 中央執行委員長
	藤原 正昭	行岡保健衛生学園 顧問
松原 正	株式会社かんぼう 代表取締役	

	吉田 俊朗	元 ユニチカ株式会社 監査役
	米田 明正	株式会社グローアップ 代表取締役
理事	熱田 親憲	NPO 法人ネパールロードを支える会 理事長
	栗村 壽子	有限会社天王寺英数学院 理事長
	坂口 久代	関西イタリア語文化センター 代表
	田中 久雄	元 株式会社かんぼう代表取締役
	佐藤 正隆	リタワークス株式会社 代表取締役
	木 泰輔	エーゼル株式会社 代表取締役
	寺西 浩章	(宗) 家原寺 住職
	永島 智子	イオングループ労働組合連合会 会長
	古谷 裕子	北港運輸株式会社 代表取締役
	宮野谷 篤	株式会社 NTT データ経営研究所 取締役会長
	森本 榮三	森本グリーンサービス 相談役
	監事	出口 貴之
毛利 吉男		株式会社カステロ 代表取締役
山下 泰之		元 東邦金属 株式会社 常勤監査役

(2022年3月31日現在)



第10回定期総会

本会の事業・活動は、理事会及び各常置委員会によって管理・運営されている。2021年度における理事会、各委員会の開催状況は以下の通り。

#### V-C. 理事会

(議長:篠原 勝弘会長 櫻井紘哉副会長)  
理事会: 5月、9月、12月、3月 (計4回開催)  
原則として第4火曜日に実施。

#### V-D. 常置委員会

##### I. 公益目的事業Ⅰ 開発支援事業委員会

2021年度は、開発支援事業の進捗状況の確認、課題提示、プロジェクト評価、報告などを実施。2022年度新規事業の審議を実施。

委員長:福澤邦治理事  
副委員長:米田明正理事  
委員:小原純子副会長、冨松英二理事、森本榮三理事

<事業内容>

1. 水事業
2. 子ども事業
3. 貧困対策事業
4. 環境事業

開催日:5月、7月、9月、12月、2月、3月 計6回実施。

##### II. 公益目的事業Ⅱ 国際交流事業委員会

国際交流事業の進捗状況の確認、報告などを中心に行なった。各事業ごとに実行委員会を持ち、円滑にプログラム運営を実施。

委員長:西田貞之理事  
委員:坂口久代理事

<事業内容>

1. 人材交流・育成事業
2. ネットワーク推進事業(アジア国際ネットワークセミナー、ユースサミット)
3. アジア・フレンドシップ夢基金

開催日:5月、9月、11月、2月 計4回実施。

アジアユースサミットについては開催年で、佐藤正隆理事を委員長として第7回 AYS 実行委員会を立ち上げ実施した。

##### III. 公益目的事業Ⅲ 生活支援事業

2021年度は、以下1~3の支援事業決定事項や進捗状況について協議。特にコロナ支援に関してはインドでの感染拡大の折、JPF資金を得ての支援実施、また、年度途中フィリピンでの台風被害を受けて緊急支援依頼が現地よりあり、その対応に関して協議した。

委員長:藤原正昭理事  
副委員長:松原 正理事

<事業内容>

1. ネパール地震災害復興支援事業
2. 東日本大震災支援事業
3. コロナウイルス感染症対策支援
4. フィリピン台風被災者支援

開催日 5月、6月、7月、9月、11月、12月、2月(メール会議、稟議を含め 計7回実施)

##### IV. 公益目的事業Ⅳ 普及啓発事業

事業項目別に担当理事を中心に委員会が開催された。

<事業内容>

###### 1. 広報企画委員会(法花敏郎委員長)

アジアネット編集を中心に開催。  
開催月:4月、5月、6月、7月、8月、9月、10月、11月、12月、2022年1月、3月(2回) 計12回開催

###### 2. 会員拡大・地域活動推進委員会(齋藤公代委員長)

地区世話人とともに活動していく仲間(会員)の輪を広げる活動を推進した。  
会員拡大・地域活動推進委員会:4月  
地区会長会:7月  
会員拡大諮問会議:8月、10月、11月、12月、1月

###### 3. 企画事業委員会(沖田文明委員長)

住道バザー、土と水と緑の学校、熊野塾は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止。第6回アジア・チャリティ・フェスティバルは12月12日に大阪国際交流センターにて開催した。  
委員会:4月、6月、9月、11月、12月、2月

###### 4. 国際理解・文化事業委員会(實清隆委員長)

アジアを身近に感じ理解し、活動を応援する人々の育成と支援の輪を広げる活動を推進した。  
開催月:4月、9月、12月、3月

###### 5. SDGs活動委員会(松原正委員長)

今年度新設の委員会。SDGsの理解と活動推進を行うために、法人会員へのアンケート実施、SDGsオンラインセミナー第2弾(2月より毎月開催)の企画実施を行った。  
開催月:5月、6月、7月、11月、2月 計5回実施。

##### V. 特別委員会

###### 1. 政策審議委員会

委員長:井上勇一理事  
委員:篠原勝弘会長、實清隆理事、栗村壽子理事、田中久雄理事、寺西浩章理事、永島智子理事、古谷裕子理事、宮野篤理事、熱田親憲理事  
開催月:9月、12月 計2回実施。

###### 2. 経営企画戦略委員会

40周年記念のビジョン委員会の内容を受け継ぎ、次なる10年の活動ビジョンを実行する共に、その戦略案を作成し、より良い経営につなげることを目的とし、委員会を実施。世界水の日になんだ活動展開を企画展開を行う。  
委員長:米田明正理事  
委員:池田直樹理事、佐藤正隆理事  
アドバイザー:湯川 剛理事長  
開催月:9月、12月、2月 計3回開催

## VI. 法人管理部門

### 総務財務委員会

委員長:櫻井紘哉理事

1. 総務兼法人賛助会担当 櫻井紘哉副会長
2. 財務担当 上野 孝一理事
3. 法務担当 池田 直樹理事
4. 庶務担当委員 吉田 俊朗理事
5. ガバナンス委員 富松 英二常務理事
6. 労務担当 金井 英夫理事
7. 業務統括・事務局 村上 公彦専務理事

開催月:原則として8月を除き毎月開催、計11回。

### 【事業報告の付属明細書】

2021年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する付属明細書に記載すべき事業報告の内容を補足する重要な事項が存在しないので、これを作成しない。

以上



第10回定期総会 人数制限とオンライン併用で実施



第1回常任理事連絡会の様子